

ネズミ狩り

作・榎原拓

○登場人物

南ナツキ（30歳・独身・南家の長女・南海亭の女将）

南フユコ（25歳・独身・南家の次女・OL）

南ハルアキ（23歳・独身・南家の長男・フリーター・極悪同盟メンバー）

山田トモゾウ（27歳・独身・南海亭の従業員）

青木ハジメ（25歳・独身・南海亭の従業員）

土屋ヨシコ（35歳・主婦・南海亭のパート従業員）

宮本ワカナ（20歳・専門学校生・南海亭の新人アルバイト従業員）

富永エツコ（35歳・主婦・近所の主婦）

島田サトル（23歳・独身・フリーター・極悪同盟メンバー）

清水ヤスコ（35歳・主婦・殺害された清水ユウスケの母親）

宇田川テツヤ（28歳・独身・週間セブン記者）

客1（※例えば、フユコを演じる俳優などによって他の役の裏役として演じられると良い）

客2（※客1に同じ）

◎ 第一場

都心近郊のそば屋「南海亭」の店内。

正面壁の上手側に厨房へとつながる入口、真ん中あたりに厨房へとつながる配膳用の小窓とレジなどの置かれたカウンター、下手側に二階の自宅へとつながる階段がある。

上手側に店の入口、下手側にお手洗いや倉庫へつながる通路がある。

それらの壁や入口に囲まれて、上手側と真ん中に四人掛けのイスとテーブル、下手側にお座敷席がある。

火曜日。

お昼のピークを終え、残った最後の客たちが食事を終えた頃。

パート従業員の土屋ヨシコが二人連れの客の会計をしている。

アルバイト従業員の宮本ワカナが各テーブルを布巾で拭いている。

厨房の中では、従業員の山田トモゾウと青木ハジメが調理をしているが、その姿は見えない。上手側のテーブル席では男性客の宇田川がざるそばを食べている。

土屋 千円お預かりします……三二〇円のお返しです。ありがとうございましたー。

ワカナ ありがとうございますー。

トモゾウの声 毎度ありー。

ハジメの声　ありがとうございます。

客たち　ごちそうさまでしたー。

客たち、上手の出入り口から去る。

宇田川、食事を終わるとレジへと向かう。

宇田川　ごちそうさま。

土屋・ワカナ　ありがとうございます。

土屋　ワカナちゃん、(レジを)やっつてーらん。

ワカナ　あつ、はい。

ワカナ、レジに向かう。

土屋、それを見守る。

ワカナ　(客から伝票を受けとり) お預かりします。ざるそばが一人前で、五八〇円になります。

宇田川、財布から五八〇円を取り出し、ワカナに渡す。

ワカナ (硬貨を数えて) 五八〇円ちょうどお預かりします。

宇田川 ごちそうさま。

ワカナ ありがとうございます。

土屋 ありがとうございます。

トモゾウの声 毎度ありー。

ハジメの声 ありがとうございます。

宇田川、去る。

土屋 ああー……やっと途絶えた。

ワカナ 忙しかったですね、今日。

土屋 ホント……。

土屋、客のそばを片付け始める。

ワカナ、テーブルの上を布巾で拭いたりする。

土屋 大分慣れてきたみたいね。

ワカナ はい、ちよつとまだ緊張しますけど。

土屋 今日で何回目なの？

ワカナ 土日入って、今日で三回目です。

土屋 じゃあ、平日初めてなんだ。

ワカナ そうですね。

土屋 あたし土日って入ったことないからよく分かんないんだけどさあ、やっぱ違うもん？

ワカナ ああー、家族連れが多いですね、土日は。

土屋 やっぱりねえ、土日は家族で外食だよ、いいわよね外食。

ワカナ 土屋さんはしないんですか？

土屋 そんな余裕ないわよ、共働きで子供養って。

ワカナ ああー……。

土屋 食料品とかも随分値上げしちやってるでしょ。

ワカナ まあ……。

土屋 もう、日々十円二十円単位で生活してんだから、外食なんて、とんでもないわよ。

ワカナ そうなんですか……。

土屋 ワカナちゃん家は？ するの？ 外食とか。

ワカナ 昔はよく行きましたね、ファミレスとか。

土屋 ああーファミレスねえ。

ワカナ お寿司屋さんとか。

土屋 へえー。

ワカナ でも大学生になったら、あんまりそういうのもなくなりましたけど。

土屋 お父さんって何やってる人なの？

ワカナ 大学教授です。

土屋 へえー……じゃあ結構裕福なんじゃない。

ワカナ 裕福ってわけじゃ……。

土屋 中の中とか。

ワカナ ああーまあ。

土屋 へえー……うちは下の中なんだけどね……。

ワカナ はあ……。

土屋 ……。

ワカナ 土屋さんって、長いんですか？ このお店。

土屋 そうねえ、五年くらいになるかなあ。

ワカナ へえー……。

土屋 でもあたしより、トモちゃんの方が長いわよ(小窓に向かって)ねえ、トモちゃん？

奥の小窓から、トモゾウが顔を出す。

トモゾウ はい？

厨房の中で食器が落ちる音がする。

トモゾウの声 (厨房の中に顔を戻し) ほら、気をつけろよ！

ハジメの声 すみません！

土屋 ナツキちゃんよりも古株だから、トモちゃん。

ワカナ えっ？ 女将さんより？

土屋 もう七、八年になるんじゃない？

ワカナ へえー……。

土屋 前の女将亡くなって、娘のナツキちゃんがそれ引き継いで……それがだいたい三年前で……。

トモゾウ (そばを小窓から出して) はい、上がったよー、細川印刷ね。

ハジメ はい。

上手奥の厨房入口から、ハジメが出てくる。

ワカナ 女将さんって、結婚とか……。

土屋 ナツキちゃん、独身。

ワカナ あっ、そうなんですか……。

土屋 (急に態度を硬化させて) あんまそのことに触れちゃダメよ。

ハジメ じゃあ、行ってきます。

土屋・ワカナ 行ってらっしゃい。

トモゾウ (厨房から出てきて) あっ、ハジメ、ちよっと待った！

ハジメ はい？

トモゾウ ざるだし入れた？

ハジメ (確認して) あっ！

トモゾウ ほら、しっかり確認しろよ。(そばつゆをハジメに渡す)

ハジメ (そばつゆを受け取りながら) すみません。

土屋 良かったねえ、気づいて。

ハジメ はい。

土屋 暑いのに二往復するところだったね。

ハジメ すみません、行ってきます。

土屋・ワカナ 行ってらっしゃい。

ハジメ、去る。

トモゾウ つたく……ホントおちよこちよいなんだから。

土屋 まあ、随分マシになったんじゃない？

トモゾウ いやーまだまだ……。

土屋 でも、そばも打てるようになったし……。

トモゾウ 一年もいりやあね。

ワカナ ハジメさんって、おいくつなんですか？

トモゾウ 今年二十五？

ワカナ 五つ上かあ……。

土屋 若いのになかなか根性あるわよね、真面目だし。

ワカナ そうですよね。

土屋 彼女とかいないのかしらね。

トモゾウ いないみたいよ。

土屋 そうなんだ……まあ、ちよつと奥手な感じするもんね。

トモゾウ あんま遊んだりしてないみたいだし。

ワカナ 趣味とかないんですかね？

トモゾウ ああー、なんか音楽とかやってたみたいだけど。

土屋・ワカナ へえ……。

トモゾウ ギターとか弾けるみたいよ。

土屋 それは意外ね、今度弾いてもらおうよ。

トモゾウ 弾くかなあ……。

ワカナ ハジメさんっていつお休みなんですか？

トモゾウ 明日休みだよ、定休日だから。

ワカナ あっ、そうなんだ……。。

土屋 何？ 気になるの？

ワカナ いや……。。

土屋 ひよっとして狙ってんの？

トモゾウ えっ？ そうなの？

ワカナ やめて下さいよ。

土屋 なんならあたしが間とりもってやろうか？

ワカナ いや、ホントそんなんじゃ……。。

土屋 そんな遠慮しなくていいわよ。

ワカナ いや……。。

トモゾウ 土屋さん、土屋さん。

土屋 何？

トモゾウ はしやぎすぎぎ。

土屋 はあ？

トモゾウ またやめちゃうから。

ワカナ いや……やめませんけど……。

入口が開いて、お富さんこと近所の主婦・富永エツコが現れる。

富 永 こんにちは！

土 屋 ああつ、お富さん！

トモゾウ いらつしやい。(厨房に入る)

ワカナ いらつしやいませー。

富 永 もうー暑いわねー。

土 屋 ホント今日スゴいわよね。

富 永 三五度だつてよ。

土 屋 ええーっ？

富 永 あれ？ なんだっけ？ 新人の。

ワカナ あつ、宮本ワカナです。

富 永 そうそうそう、ワカナちゃんワカナちゃん、ワカナちゃん、動き鈍くない？

ワカナ えっ？

富永 ほら、お客さん来たらすぐお冷や出さないと。

ワカナ あっ、すみません。

土屋 (お冷やを出して) はい、どうぞ。

富永 さすが、土屋さんは早いねえ……。

ワカナ すみません……。

富永 注文いい？

土屋 あら、珍しいわね。

富永 たまにはね。

土屋 何にする？

富永 えーつとね、もりそば。

土屋 もりそば……以上で。

富永 うん。

土屋 もりそば一丁。

トモゾウ あいよー。

富永 あれ？ ナツキーは？

土屋 ナツキちゃん、今ちよつと出てる。

富永 あっ、そう……(どうしようか考えあぐねるしぐさ)

土屋 どうしたの？

富永 いやね、週間セブンってあんじやない？

土屋 ああ、うん。

富永 その記者がさあ、うちに来てさあ、さつき。

土屋 えっ？ そうなの？

富永 なんか、この店のことしつこく聞いてたわよ。

土屋 えっ？ また事件のこと？

富永 うん、まあ……。

土屋 なんて？

富永 なんか、経歴とかさあ。

土屋 旦那さんの？

富永 うん、あと従業員のこととか。

土屋 えっ？ 従業員？ あたしのことも？

富永 ああーまあ……。

土屋 ヤダ、お富さん、なんて言ったの？

富永 いや、そんな大したことじゃないわよ、土屋さんの子供五人いるとか、旦那が運送業でリストラされそうとか。

土屋 ええっ？

富永 最近、中二の息子があんま口聞いてくれないとか。

土屋 言っつてンじゃない？

富永 そんなのググればいくらでも出てくるわよ。

土屋 何？ ググるって？

富永 ネットで検索すんのかよ、グーグルってあんでしょ？ グーグルで検索するっていうのを略してググるって言うのよ。

土屋 何それ？

富永 (ワカナに) 言うわよね？

ワカナ あっ、はい。

富永 ほら。

土屋 聞いたことないわよ。

富永 土屋さん、ネットやらないの？

土屋 うちパソコンないから。

富永 そうなの？ 今時珍しいね。

土屋 下の中なんです。

富永 あっそっか……うちの中の下、(ワカナに) あんたは？

ワカナ はあ……。

土屋 この子、中の中だから。

富永 あらそうなの？ お父さん何やってんの？

土屋 大学教授だったて。

富永 へえー。

土屋 っていうかさあ、記事にされたらどうすんのよ。

富永 なんないわよ。

土屋 ホント？

富永 だって下の中のこと記事にしたって面白くないでしょ。

土屋 失礼ね。

富永 今更何かしらね？ 亡くなって一年経つていうのに。

土屋 いやよ、またテキストなこと書かれるの。

富 永 一応ね、ここだけの話って言うておいたから。

土 屋 全然説得力ない……。

ワカナ あのー……週刊誌って……なんかあつたんですか？

富 永 あれ？ 知らないの？

ワカナ はい。

富 永 ヤダ、ちよつと言つてないんだ。

土 屋 まあ……。

富 永 ニュースでやってたでしょ？ 一年前、十八歳の少年が、そば屋の店主をメッタ刺しにした……。

ワカナ ああー。

富 永 ついでに同級生もメッタ刺しにした。

ワカナ ああー！！

富 永 埼玉そば屋店主しゃつじん事件。

土 屋 殺人事件。

富 永 埼玉そば屋店主しゃつじん事件。

土 屋 殺人事件。

富 永 埼玉とばやてんつつあつずんずけん……言いくいわね……まあ、とにかくね、埼玉のそば屋の

お店の主人が殺人事件で殺されちゃったっていう、そういう事件よ。

ワカナ

この店だったんですか？

富永

そうよ、この店の旦那よ、その娘がナツキーことナツキ！

ワカナ

あつ！ そういうことですか……。

富永

そうよ。

ワカナ

えっ？ ここで殺されたんですか？

土屋

いやいやいや……。

富永

そこに公園あんでしょ？

ワカナ

はい。

富永

よせばいいのにさあ、不良の喧嘩に割って入っちゃったりするから。

ワカナ

ああー。

富永

最近の子はキレると何するか分かんないじゃない？ ねえ、土屋さん。

土屋

えっ？ うち！？

富永

あんたんとこも気をつけてないと。

土屋

まっさかー……うちの子にかぎって……。

富永

どこの親もそういうこと言うのよ。

土屋 えっ？

富永 知らなかったんだ。

ワカナ はい。

富永 すごい店で働いてるのよ、ワカナちゃん。

ワカナ いやー全然気づきませんでした、皆さん、普通にしてるし……。

富永 どーもこの店にはなんていうか、不穏な空気っていうか、なんかそういうのが漂ってるのよねえ……不幸ばっかり重なるし……。

ワカナ えっ？ 他に何かあるんですか？

富永 三年前に奥さん、ガンで亡くなってるでしょ？

ワカナ ああー。

富永 次女のフユちゃんはよく痴漢に遭うでしょ。

土屋 ちよつとお富さん！

富永 いいからいいから、こういうのはねえ、隠し立てしない方がいいんだって、っていうか、みんな週刊誌に載ってるし、2ちゃんにも書かれて炎上してるから。

土屋 2ちゃん？

富永 2ちゃんねるよ。

土屋 テレビ?

富永 ネット!

土屋 えっ?

富永 もういいわよ。

土屋 何よ。

富永 あと、末っ子の長男のハルアキってというのがいんだけどさあ、これがまた、蕎麦アレルギーで。

ワカナ へえー。

富永 そば屋の息子が蕎麦アレルギーって……。(苦笑)

ワカナ (苦笑して) おかしいですね。

富永 おかしくないわよ、何笑ってんのよ、笑えないでしょ、跡継がないんだから。

ワカナ すみません。

富永 しかもニートだし。

土屋 フリーターだから。

富永 一緒一緒。

土屋 一緒じゃないから。

ワカナ 働いてはいるんですよね?

土屋 うん……まあ……。

ワカナ じゃあフリーターですね。

富永 まあどっちでもいいんだけどさあ、見たことない？ こんな頭して、すっごいメイクして、デーモン

木暮みたいな。

ワカナ デーモン木暮？

富永 悪魔よ、不吉でしょ？

ワカナ 何してるんですか？

富永 バンドやってるのよ。

ワカナ へえ……。

富永 そのバンド名がさあ、極悪同盟っていうだけどさあ。

ワカナ 極悪同盟？

富永 これまた不吉なネーミングでしょ？

ワカナ ああ、まあ。

富永 しかもメンバーの名前が、ダンプに、クレーンに、ブルっていうのよ。

ワカナ ダンプ、クレーン、ブル……アハハハ……。

富永 おかしいでしょ？

ワカナ なんですかそれ、全部それ工事車両じゃないですか。

富永 いやいやいや……工事車両っていうのは分かってんのよ、そこ笑い所じゃないから。

ワカナ えっ？

富永 極悪同盟で、ダンプ、クレーン、ブルって……まんまじゃない。

ワカナ ？

土屋 いやあのね、ダンプはダンプ松本、クレーンはクレーン・ユウ、ブルはブル中野、女子プロの極悪同

盟そのまんまでしょ。

ワカナ 女子プロ？

土屋 うん。

ワカナ ゴルフですか？

土屋 はあ？ プロレスよプロレス、女子プロレス。

ワカナ ああー。

土屋 ダンプ松本っていたでしょ？

ワカナ 誰ですか、それ。

土屋・富永 えっ、ダンプ松本知らないの？

ワカナ はい。

土屋 悪役レスラー、ほら、こんな太って、竹刀振り回してさあ。

富永 八十年代に一世を風靡した。

ワカナ ?

土屋 クラッシュギヤルズっていたでしょ？

ワカナ クラッシュギヤルズ？

土屋 ライオネス飛鳥と長与千種。

ワカナ ?

富永 あれ？

土屋・富永 知らない？

ワカナ はい。

土屋 じゃあじゃあじゃあ、ジャガー横田は分かるわよね。

ワカナ ああ、はい。

土屋 そのジャガー横田の愛弟子っていうのが、ライオネス飛鳥、その相棒が長与千種、二人コンビでクラッシュギヤルズ、すっごい人気だったんだから。

ワカナ へえー……。

土屋 知らないんだ……。

ワカナ 平成生まれなんで……。

土屋 あらあ……。

富永 だけどさあだけどさあ、土屋さん、随分熱く語るわね、女子プロのこと。

土屋 あたし昔、女子プロレスラーになりたかったんだあ……。

富永 へえー……。

トモゾウ (小窓からそばを出しながら) はい、もり一丁。

土屋・ワカナ はい。

土屋 技とか覚えてさあ、よくクラスの男子にかけたりとかしてたわよ。

富永 まあ、おてんばさん。

ワカナ (そばを富永に出して) お待たせしました。

土屋 コブラツイストとか、四の地固めとか、あと延髄切りとかさあ。

トモゾウ、新聞・雑誌を取りに出てくる。

富永、おそばを食べ始める。

富永 ちよつとさあ、トモゾウにかけてみたら？

トモゾウ えっ？

土屋 覚えてるかなあ……。 (と言いながらコブラツイストをかけ始める)

トモゾウ ちよつと何すんの？

土屋 あれ？ こうやって……。こうやって。

トモゾウ ちよつと、イタタタタ……。。

土屋 コレだコレだ！ 決まった！

トモゾウ イタタタタ……。。

富永 すごい！

ワカナ ええ……。。

土屋 ヨッシャー！ (技を決めてポーズをとる)

入口から南家の次女フユコが入ってくる。

フユコ あっ……。。

ワカナ あっ、いらっしやいませー

土屋・トモゾウ あっ……。どうも。

富永 あつ、フユちゃん。

土屋 ちよつと……技の確認……。

フユコ 技？

トモゾウ いいから離してよ。

土屋 あつ、ゴメンゴメン。(技をほどく)

トモゾウ イッテえ……何すんだよ、もう……。

土屋 ゴメンゴメン。

トモゾウ、首を傾げながら厨房へと入る。

富永 フユちゃん、お久しぶりじゃない。

フユコ ご無沙汰してます。

富永 元気でやってる？

フユコ はい、おかげさまで。

富永 そう。

フユコ 姉は……。

土屋 ナツキちゃん、今ちよつと出てるのよ、もうちよつとで帰ってくると思うんだけどね。

フユコ そうですか……じゃあ、ちよつと上で待たせしてもらいます。

土屋 あっ、はい。

フユコ お邪魔します。

フユコ、二階へ上がる。

富永 (ワカナに) 次女のフユちゃん……。

ワカナ ああー！ よく痴漢に遭う。

土屋・富永 シーツ！！

富永 バカッ！

ワカナ えっ？

土屋 洒落になんないから。

富永 そうよ、もう……相当トラウマなんだから。

ワカナ そうなんですか？

土屋 電車にも乗れないのよ。

ワカナ ええー……。

土屋 男を見ると、まず痴漢だっけ思うらしいわよ。

ワカナ ええー……。

富永 ねえ、やっぱりお祓いとかしてもらった方がいいんじゃないの、この店。

土屋 そうはいつでもねえ、ナツキちゃんがあんまそういうの好きじゃないから。

富永 そういうところ、なんかオヤジに似てガンコなのよね、ナツキーは。

電話が鳴る。

土屋が出る。

土屋 はい、毎度ありがとうございます、南海亭です……あつ、竹中さん、どうも、はい、大丈夫ですよ、どうぞ、はい、えーつ、ざる二つ、南海一つ、以上で、はい、はい、毎度、はい、はい、はい、はい。

土屋、通話を終えて受話器を置く。

土屋 トモちゃん、出前いい？

トモゾウの声 あいよ。

土屋 ざる二枚に、南海一丁。

富永 (ワカナに) ちよつとお冷やもらえる？

トモゾウの声 あいよ。

ワカナ あ、はい。

土屋 二丁目の竹中さんね。

トモゾウの声 はい………。

ワカナ (お冷やを渡して) どうぞ。

この店の女将・南ナツキが入口から入ってくる。

ナツキ ただいまー。

ワカナ おかえりなさい。

土屋 おかえりー。

富永 あつ、ナツキーおかえり。

ナツキ ああ、お富さん、いらつしやい………(そばを注文してるので) あら、めずらしい。

富永 たまにはね。

土屋 フユちゃんが来てるわよ。

ナツキ フユコが？

土屋 上で待ってる。

ナツキ あっ、そう……。

ナツキ、二階へ上がる。

土屋、富永、ワカナ、その様子をうかがう。

富永 また喧嘩？

土屋 ねえ。

富永 さすが、ナツ(夏)とフユ(冬)……真逆だからねえ……合わないわけだ……。

ワカナ あっ、そう言えば、夏と冬ですね。

富永 生まれた季節だから。

ワカナ そうなんですか？

富永 それにちなんでつけられたんだって。

ワカナ　へえー……ステキですね。

土屋　でもさあ、なんでハルちゃんハルアキって言うんだらうね。

ワカナ　あつ、そばアレルギーの。

土屋　そうそう。

富永　末っ子だからテキトーにつけたんじゃない？

土屋　そうなの？

富永　夏と冬はいるからさあ、あとは春と秋ってね。

土屋　ああー……。

ワカナ　あつ、そう言えば、春夏秋冬全部ありますね。

土屋　うん、そうね。

ワカナ　うわーなんか、なんかステキな姉弟じゃないですか……。

フユコの声　いい加減にしてよ！

ナツキの声　ちよつとそんな大声出さないでよ！

土屋・富永・ワカナ　……？

富永　何だらう？

土屋　裁判のことじゃない？

富永 痴漢の？

土屋 おやじさんの！

富永 何？ まだ揉めてんの？ いいじゃない、死刑で……二人もメッタ刺しにしてんだから……。

土屋 ナツキちゃん、その辺、頑なだから。

富永 おやじさんはさあ、もう歳だからいいけどさあ……一緒に殺された同級生の……なんだっけ？
あの子。

土屋 清水君。

富永 そうそう清水君、清水君、十七でしょ？……まだまだ人生これからだって時にさあ……かわいそ
うよねえ……。

土屋 残された親がねえ……。

富永 そうそうそう……。

入口からハジメが戻ってくる。

土屋 あっ、お帰り。

ワカナ おかえりなさい。

ハジメ (富永に) こんにちは。

富永 こんにちは。

ハジメ あつ、ちよつと釣り銭忘れちゃったんで……。

一同 ああー……。

ハジメ、厨房から釣り銭をとってくる。

ハジメ じゃ、行ってきまーす。

一同 行ってらっしゃーい。

ハジメ、去る。

土屋 結局二往復だね。

ナツキの声 ちよつと待ちなさいよ！

二階からフユコが猛烈な勢いで駆け下りて来て、そのまま店を出て行く。

あとからナツキがフユコを追って階段を下りて来る。

ナツキ 待ちなさいって！

そのままナツキも店を出て行く。

店のすぐ出たところで言い争いの声が聞こえる。

フユコの声 離してよ！

ナツキの声 人の話最後まで聞きなさいよ！

フユコの声 そんな話聞く必要ない！

ナツキの声 それじゃあ何も解決しないでしょ！

フユコの声 混乱させてんのはどっちよ！

ナツキの声 だからさあ……。

フユコの声 もういいわよ！

ナツキの声 ちよっと待ちなさいよ！

土屋と富永とワカナ、呆然と様子をうかがっている。

ナツキ、戻ってくる。

ナツキ あっ……ゴメンナサイね……。

一同 ああ……。

富永 大丈夫なの？ フユちゃん。

ナツキ 大丈夫、大丈夫……ホント頑固モンでさあ……ああいうところ、父さんに似たのよねえ……もう

困っちゃうわよ。

一同 ああ……。

土屋 ちよつとトイレ行って来るわね。

ナツキ ああ、どうぞ。

土屋、下手側のトイレの方向へ去る。

天井裏から下手側の階段脇へゴソゴソとネズミが走り回る音がする。

ナツキ・富永 あっ！

ワカナ ?

ナツキ もうー…………。

ナツキ、厨房からモップを持ってきて、下手側の階段あたりの柱を叩く。

その様子をワカナがうかがう。

ワカナ えっ? 何ですか?

富 永 ネズミ、ネズミ。

ワカナ えっ? ネズミいるんですか?

富 永 取り憑かれちゃってるのよ、この店、ネズミに。

ワカナ ええっ!?

ナツキ 取り憑かれてるなんて、縁起でもない…………。

富 永 ガンに、殺人に、痴漢、ニート、そばアレルギー、ネズミ…………災いのオンパレードよ。

ワカナ これ、駆除とかしないんですか?

ナツキ さんざんやったわよ、粘着シートとか、毒餌とか、あと捕獲器? だけどそんなことしても、すぐ効

果なくなっちゃって…………。

富 永 学習能力高いからねえ、ネズミは。

ナツキ おまけにネズミって繁殖能力もすごいから、生後三〜四週間で、すぐ子供産むらしいのよ。

ワカナ ええーっ……………。

ナツキ 一回で七、八匹だつて。

ワカナ へえー……………。

ナツキ それ三、四週間放っておいたらさあ、七七四十九で四十九匹、それまた三、四週間放っておいたら、四十九カケル七で……………いくつ？

ワカナ 三四三匹です。

富 永 早いわねえ。

ワカナ 理系なんで……………。

ナツキ とにかくね、もたもたしてたら、三四三匹、ネズミ算式にどんどんどんどん増えていくから。

富 永 あっ、ウマイ！

ナツキ えっ？

富 永 ネズミ故にネズミ算……………ウマイこと言うね。

ナツキ ……うん……………あのーネズミ故っていうか、それがネズミ算だから。

富 永 えっ？

ナツキ いやだから、ネズミが繁殖能力高くて、ドンドン増えていくから、それと同じようにドンドン増えて

いくようなことをネズミ算式っていうのよ。

富 永 あっ、そうなんだ……。(ワカナに) だってよ。

ワカナ はあ……。

ナツキ まあそれはいんだけどさあ、にっちもさっちもいなくなって、業者にも頼んだけどさあ。

ワカナ はあ。

ナツキ 最初の一、二週間は良かったのよ……全然出なくなって、安心して、ああーもうあのゴソゴソって
いう不気味な音とはおさらばだって、そう思ったら、また出始めて。

ワカナ ああー……。

ナツキ ホントやんなっちゃう……。

土 屋 (トイレから戻ってきて) まだ足音さえなけりゃあいいのよねえ。

ナツキ まあねー。

土 屋 見えないのに、なんかいるって感じがさあ、薄気味悪くない？

ナツキ そうねそうね。

再び、天井裏から下手側の階段脇へゴソゴソとネズミが走り回る音がする。

一同 あっ。

ナツキ、柱や天井をたたく。

ナツキ もうっ！

ハジメが帰ってくる。

息を切らせて汗をダラダラかいている。

ハジメ すみません、遅くなりました。

一同 お帰り。

ナツキ すっごい汗ね。

土屋 走ってきたの？

ハジメ すみません、ちよつと水もらいます。

ハジメ、給水器から水をコップに注いで一気に飲む。

トモゾウ、出来上がったそばを持って厨房から出てくる。

トモゾウ　じゃあ、オレ行ってくるわ。

ハジメ　あつ、自分行きますよ。

トモゾウ　いいよいいよ、ちよつと休んでろよ。

ハジメ　えっ？

トモゾウ　熱中症とかなったら困るだろ。

ハジメ　いや、大丈夫です。

土屋　あんま無理しない方がいいわよ。

ナツキ　外スゴイ暑いでしょ。

ハジメ　すみません。

トモゾウ　ついでに休憩とつてくるから、じゃあ、行ってきます。

一同　行ってらっしゃーい。

トモゾウ、去る。

富永、入口まで行き、トモゾウが去るのを確認する。

ナツキ　ワカちゃん、そろそろ休憩とろつか？

ワカナ　あつ、はい。

ワカナ、身支度をする。

ハジメ　ちよっとトイレ行って来ていいですか？

ナツキ　ああ、どうぞ。

ハジメ　すみません。

ハジメ、下手側のトイレの方向へ去る。

ナツキ　ワカちゃん、お昼どうする？

ワカナ　あつ、今日は外で食べてきます。

ナツキ　いいのよ遠慮しないで、そばでもどんぶりでも。

ワカナ　パンが食べたいんで……。

ナツキ あっ、パンね……。

ワカナ マック行ってきまーす。

一同 行ってらっしゃーい。

ワカナ、去る。

富永、入口でワカナが去ったのを確認する。

土屋 (富永に) どうしたの? お富さん。

富永 いやなんか、ちよつといろんなところで話になってんだけどさあ。

土屋 何?

富永 最近、味変えた?

土屋 えっ?

富永 そばの。

ナツキ いや、別に……。

富永 なんか、前とちよつと違うわよ。

ナツキ どんな風に。

富永 んー……なんていうか……。

トイレを流す音。

トイレのドアを開けて閉める音。

ハジメがトイレから戻ってくる。

ナツキ、富永、土屋、口をつぐむ。

ハジメ あっ、あのー、ちよつと汗かいたやつたんで、シャツ変えてきてもいいですか？

ナツキ・富永・土屋 ああーいいわよいいわよいいわよ。

ハジメ すみません。

富永 ごゆつくりー。

ハジメ、トイレの方向にある従業員控え室に入る。

富永 風味が変わったっていうかさあ……。

ナツキ えっ？ どんな……。

富 永 ナツキー、最近自分とこのそば食べる?

ナツキ えっ? いや、ちよつと忙しくて……。

富 永 なじみのお客がさあ、食べ残して帰るらしいじゃない? ねえ、土屋さん。

土 屋 えっ?

富 永 クレームとかもあんでしょ? ねえ、土屋さん。

ナツキ えっ? (土屋に) そうなの?

土 屋 ああ、まあ……。

ナツキ ちよつとなんでそれ早く言ってくれないのよ。

土 屋 いや、ナツキちゃん、裁判のことでいろいろ大変かなあって思って、それでちよつと……。

ナツキ 水くさい……。

土 屋 ゴメンなさい……。

富 永 お父さんなくなつて大変なのは分かんよ……だけどさあ、その味受け継いでるの、いっっちゃあト

モゾウだけじゃない? 長男、そばアレルギーだし……。

まあ……。

富 永 お父さん築いた大事な店の味なんだからさあ、しっかり守った方がいいと思うわよ。

ナツキ そうね……。

土屋 一度、ナツキちゃんの口からトモチちゃんにそれとなく言ってみたら。

ナツキ うん……そうね……。

富永 これじゃあ、亡くなった親父さん、草葉の陰で泣いてるわよ。

ナツキ うん……。

ハジメが下手から戻って来る。

ハジメ お疲れ様です。

ナツキ あっ、汗大丈夫？

ハジメ はい、もう落ち着きました。

ハジメ、厨房に入る。

富永 じゃあ、そろそろあたし行くわ。

ナツキ あっ、そう？

富永 おいくらだっけ？

ナツキ ああ、今日はいいわよ。

富永 あらそう？

ナツキ うん……。

富永 悪いわね。

ナツキ いいからいいから……またよろしく。

富永 うん……じゃまたね。

土屋 どうもありがとう。

富永、去る。

ナツキ、富永が食べたそばのざるのニオイを嗅いでみる。

土屋 あれ？ ナツキちゃん、両替。

ナツキ あっ、まずい！ 三時だ……ゴメン、ちよつと行って来るわ。

土屋 行ってらっしゃい。

ナツキ、去る。

土屋 はあ……。

土屋、少し息をつく。

再びネズミの走る音。

土屋 あっ！

土屋、下手の隅に立てかけてあったモップで、階段のあたりの柱を叩く。

土屋 もうー！

入口が開いて、宇田川が入ってくる。

土屋 いらっしやいませー。

ハジメの声 いらっしやいませー。

宇田川 あのー先ほど、こちらでおそば、いただいた者なんですけど。

土屋 あつ、はいはいはい、先ほどの方、何か……。

宇田川 すごいおいしかったんで……。

土屋 えっ？　そうですか？

宇田川 ちよつと取材させていただこうかなと思ひまして……。

土屋 えっ？

宇田川 私、こういうものでして……。 (名刺を渡す)

土屋 週間セブン……。

宇田川 宇田川と申します。

土屋 あの……事件のことだったら、取材はちよつと……。

宇田川 いえいえいえ……おそばのことなんで。

土屋 そばのこと？

宇田川 ええ、先ほどのおそばつくられた方って……。

土屋 ああー今休憩中ですけど。

宇田川 あつ、そうですか……。

土屋 ちよつと今、女将も出てまして……。

宇田川 ああー。

土屋 すみません。

宇田川 ちよつとうかがいますけど、このお店、協力雇用主っていうのに登録されてますよね？

土屋 はい？

宇田川 協力雇用主……ご存知ないですか？

土屋 協力雇用主？

宇田川 ええ、あのー刑務所出た人を受けられる、更正の支援をする……。

土屋 えっ？ この店がですか？

宇田川 はい。

ハジメ、少し厨房から姿を見せて、そつと話を聞いている。

土屋 いやー聞いたことないですけど。

宇田川 ああーそうなんですか？

土屋 えっ？ この店にそういう人がいるってことですか？

宇田川 ええ、まあ……。

土屋 ええー……まさか……。

宇田川 あつ、ご存知ないなら結構ですよ。

土屋 はあ……。

トモゾウが入口から帰ってくる。

トモゾウ ただいまー。

土屋 あつ……。

トモゾウ いらつしやいませー。

宇田川 あの私、こういう者なんですけど……。(名刺を見せる)

トモゾウ はあ？

宇田川 こんにちは。

トモゾウ ああ……ダメダメ……帰って帰って。

宇田川 あのーちよつとだけでも……。

トモゾウ ダメだから、ほら、帰って帰って、ハジメ、塩塩。

宇田川 いや、おそばのことなんで。

トモゾウ おそば？ おそばじゃねえだろ、帰れよ、この野郎！

ハジメ、トモゾウに塩を渡す。

トモゾウ (宇田川に塩をかけながら) ほら帰れ帰れ!

宇田川 (塩をかけられながら) うっ!

トモゾウ ぶっ殺すぞ、この野郎!

土屋 !?!

トモゾウ、そのまま入口を開けて宇田川を追い出し、入口を閉める。

トモゾウ ったく! ナメやがって!

土屋、先ほどの宇田川の話が気になり、トモゾウとハジメを過剰に意識する。

ハジメ、撒かれた塩をホウキで掃く。

トモゾウ 大丈夫? 土屋さん……何か聞かれた?

土屋 ああ………なんか、おそば旨かったって。

トモゾウ えっ?

土屋 いや、さっきお昼に来たお客さんでさあ……そんな時に食べたそばがおいしかったらしくって、それについて聞きたかったらしいけど……。

トモゾウ えっ? そうなの?

土屋 うん。

トモゾウ 他なんか言っていなかった?

土屋 ああー、いや特には……。

トモゾウ えっ? じゃあ、マジでそばの取材だったのかなあ……ヤベツ、追い返しちやったよ。

土屋 そうね……。

トモゾウ ホント旨いって言ってた?

土屋 ああー言っていた言っていた。

トモゾウ ああ、そう?……ふーん……やっぱ分かる人には分かるんだなあ。

土屋 ……。

トモゾウ 最近、ちょっと微妙に味変わったの知ってる?

土屋 えっ?……あつ、そうなんだ……。

トモゾウ うん……割と評判がいいんだよ、なあ、ハジメ。

ハジメ あつ、そうですね…………。

土屋 へえ…………。

トモゾウ まあ、おやじさんの味もなかなか年季が入って捨てがたいんだけどさあ、やっぱりもうひとひねり欲し

いなって思つて、今改良中だから。

土屋 ……へえ…………。

トモゾウ 完成したらさあ、土屋さんも食べてよ。

土屋 ああ、うん、食べる食べる。

トモゾウ そつか…………うめえと来たか…………よしツ、仕込むぞー。

トモゾウ、厨房に戻る。

それを目で追う土屋。

その様子を見ているハジメ。

ハジメと土屋、目と目が合う。

再びネズミの走る音。

暗転。

◎第二場

第一場に続き、そば屋「南海亭」の店内。

第一場から数時間後、夕方。

真ん中のテーブルに南家の長男・南ハルアキ(ブル)とそのバンド「極悪同盟」のメンバーの島田サトル(クレーン)が座って、それぞれ天井とそばを食っている。

まさに、極悪同盟といった感じのメイクである。

その脇で、土屋とワカナがヒマそうに突っ立っている。

ハルアキ 土屋さんさあ。

土屋 ん？

ハルアキ (小さめの声で) なんか、味変わってない？

土屋 やっぱそう思う？

ハルアキ うん、なんかあ、タレがさあ、濃くない？

土屋 ああー、やっぱり分かるんだあ……。

ハルアキ そばもさあ、なんかニオイとか、違うんだよねえ……。

土屋 ニオイまで分かるんだ。

ハルアキ 何年嗅いできたと思ってるの。

土屋 さすが長男。

ハルアキ オレそば食べねえけどさあ、ニオイだけは分かったよ。

サトル (食べ終わって) ああー、旨かったー。

ハルアキ だけどちよい違うんだよな。

サトル 何が？

ハルアキ うちのそばはさあ、こんなもんじゃねえんだよ。

サトル ウメーじゃん。

ハルアキ 前はもつと旨かったんだよ。

サトル これも全然ウメーよ。

ハルアキ こんなんじゃねえんだよ。

サトル つーか、ウメーつて。

ハルアキ もつと旨いんだつて。

サトル 全然ウメーよ。

ハルアキ クレーンさあ。

サトル なんだよ、ブル！

ハルアキ お前、そばってなんだか知ってつか？

サトル えっ？

ハルアキ だから、そばがどうやってできるか知ってっかつーの？

サトル えっ？ あれだろ？ あの、小麦粉と卵まぜて、で、パン粉つけんだろ？

土 屋 それ揚げ物じゃない？

サトル あっ、そうなんすか？

ハルアキ 全然わかってねえなあ。

サトル なんだよブル、言ってみろよ。

トモゾウがやってくる。

ハルアキ そばっつーのは、蕎麦からできんだよ。

サトル はあ？……まんまじゃんか。

ハルアキ バーカ！

トモゾウ 蕎麦って、植物のそばね

サトル えっ？ そばって植物なんすか？

トモゾウ うん、そばの実っていうのがあって、それを挽いて、粉にしたのがそば粉。

サトル へえー……。

トモゾウ それこねて生地にして、細く切って、茹でて……で、おそばになるの。

サトル すげー。

トモゾウ 見してやろっか、そば粉。

サトル えっ……あー(大して興味はないが興味あるかのように)……いいんすか？

トモゾウ せっかくだから、ちよつと待ってて。

サトル あっ、はい。

トモゾウ、厨房へ入る。

ハルアキ (そばのニオイを嗅いで) なんか違うんだよなあ……。

サトル 前がどうか知んねえけどさあ、近所のそば屋より全然ウマーよ。

ハルアキ どこだよ。

サトル 富士そば。

ハルアキ 立ち食いそばじゃん。

トモゾウ、そば粉のタツパを三つ持ってくる。
ハルアキ、すかさずマスクを付ける。

トモゾウ これこれ。

サトル へえー。

トモゾウ 全部色違うでしょ。

サトル あつ、ホントだ。

トモゾウ (一種類ずつタツパを見せながら) これ更科粉、そばの実の中心部分を挽いたヤツね、白いでしょ。

サトル へえー。(タツパを揺すってみる)

トモゾウ これでつくるときあ、喉ごしがツルつとしたそばができるんだよ。

サトル ああーそうなんすか。

トモゾウ 更科そばとかね。

サトル はあー。

トモゾウ これが並粉、フツーはこれでそばを打つのね。

サトル へえー。(タツパを揺すってみる)

トモゾウ 一番栄養価が高くてさあ、香りとか歯ごたえもいいんだよね。

サトル ほおー。

トモゾウ で、こつちが挽きぐるみ粉って言って、フツーはそば殻って最初にとつちやうんだけど、これは殻も含めて挽いてあるの、だから色が濃いでしょ。

サトル ああーそうっすね。

トモゾウ ちなみにそば殻って、枕の中身に使われてんだよ。

サトル えっ？ まじすか？

トモゾウ うん。

サトル へえー……じゃあ、オレ、そばの上に寝てるってことすか？

トモゾウ そうそう、そういうことだね。

サトル すげー。

トモゾウ まつ、最近はそば殻以外にも結構あるけどね。

サトル これ、全部ここで作ってんすか？

トモゾウ ホントはそば粉から作りたいんだけどねえ、自前で……そうした方がもつとうまいそばつくれるからね。

サトル これでも充分じゃないすか。

トモゾウ いやいや、まだまだ……本当にうまいそばってこんなモンじゃないから。

サトル　へえー……でもすっごいウマかったつすよ。

トモゾウ　あつそう？

サトル　富士そばなんか目じやないつすね。

トモゾウ　富士そば？

ハルアキ　立ち食いそば屋。

トモゾウ　ああー……。 (ハルアキに) あれ？　ハルちゃん風邪？

ハルアキ　(身振り手振りですばアレルギーであることを伝える)

トモゾウ　あつそつか！　アレルギーか！　ゴメンゴメン。

トモゾウ、すぐにタツパのフタを閉めて、そば粉を持って厨房へ去る。

土　屋　大丈夫？　ハルちゃん。

ハルアキ　(うなづく)

サトル　食わなくても出るんだ？　アレルギー。

ハルアキ　面粉。

サトル　ああー。

ハルアキ 花粉症みたいなもんだよ。

サトル へえー。

ハルアキ ホント洒落になんないから、最悪窒息死だよ。

サトル ええーマジ？

ハルアキ 喉痒くなつてさあ、気管支塞がれんの。

土屋 そういえば前あつたわね、ハルちゃん救急車で運ばれちゃったの。

サトル ええー……。

ハルアキ 十八人時だよ、オヤジと喧嘩してさあ、あんにやろう、オレにそば粉かけやがって。

サトル マジ？

ハルアキ そばアレルギーだつて、そばぐらい打てるだろうって！ 打てねえっつーの。

サトル へえー、おやしパンクだね。

ハルアキ そばアレルギーの人間にそば粉かけるって、それ殺人だろ、意識不明になっちゃうし……。

土屋 でも、あのあと旦那さん厨房で泣いてたんだから、オレのせいだ、オレのせいだつて。

ハルアキ へえー……オレには一言も詫びなかったけどね。

二階の仏壇からチーンという音が聞こえてくる。

トモゾウ、戻ってくる。

トモゾウ ホント、ゴメンゴメン、すっかり忘れてた。

ハルアキ いいよいいよ、気にしないで。

トモゾウ でも久しぶりだよね、お葬式以来でしょ。

ハルアキ ああ、そうだね。

トモゾウ 相変わらず、やってんだ。

ハルアキ まあね。

トモゾウ あれ? もう一人いたでしょ? なんだっけ?

サトル あつ、ダンプすか?

トモゾウ そうそう、ダンプダンプ、ダンプ松本。

ハルアキ いや、松本じゃないから。

トモゾウ あれ違った?

サトル ただのダンプっす。

トモゾウ ああー、(指さしながら)ブルに、クレーンに……。

ハルアキ いや逆逆。

トモゾウ ああ、ゴメンゴメン、(指さしながら) クレーンに、ブルに……ダンプはどうしたの？ ダンプは
ハルアキ それがさあ……バックレちゃいやがってさあ……。

トモゾウ えっ、そうなの？

ハルアキ しかもバンドの資金全部持ち逃げしやがって、車ごと。

一同 ええー……。

ハルアキ 広島の漫喫でさあ、オレとクレーン、シャワー浴びてて、やつ路駐で待っててさあ、おれら戻ったら
さあ、車ごといなくなつてて、で、レッカー移動とかされたと思つてさあ。

トモゾウ でも、乗ってたんでしょ？ ダンプ。

ハルアキ うん、たぶん。

トモゾウ 人乗ってたらレッカー移動されないだろ？

ハルアキ そう思つてあつちこつち探したわけよ。

トモゾウ うん。

ハルアキ だけど、携帯もつながんないしさあ。

トモゾウ あらまあ。

ハルアキ そんな時さあ、三千円くらいしか持つてなくて、二人合わせて。

トモゾウ えっ？ それでどうやって帰つてきたの？

ハルアキ 仕方ないから、広島から歩き始めて。

一同 ええーっ!?

ハルアキ だけど、そのあとすぐトラックの運ちゃんが乗せてくれて。

一同 なんだ……。

サトル いい人だったよね?

ハルアキ しかも、そのトラック、ダンプカーでさあ、おれらダンプに裏切られてダンプに救われてるよとか思

ったりして……そんなこんなでどうにか家についたらさあ、もぬけの殻で。

一同 えっ?

ハルアキ ほら、おれら、三人で同居してたじゃん、中野のアパートに。

一同 ああー。

ハルアキ そこが真っさらになつて……家具とか、一切合切持ってかれてて。

一同 ええー……。

ハルアキ だけど、これだけはって思ったんだろなあ……おれらのギターだけは残されてさあ、それに書

き置きがあつて……。(涙まじりになる)

サトル なんかあ、彼女がものすげえ借金抱えてたらしくって。

トモゾウ ああー。

ハルアキ 一千万とか。

一同 一千万？

サトル なんか、これ(ヤクザ)絡みらしくって、返さないと殺されるとか書いてあって。

ハルアキ 女がすげーホスト狂いで、そんなのほっとけよって感じなのに……。

サトル ダンプが家賃の支払いとか全部管理してたんですけど、やつそれ一年以上払ってなかったっぽくって。

一同 ええー……。

サトル それでアパートも追い出されちゃって。

一同 あらまあ……。

ハルアキ まあ、ギターしか残ってなかったから、引越し代かからなくて良かったちゃ良かったんだけどな。

サトル 不幸中の幸いだよな……ってそんなわけないだろ。

一同 ……。

ハルアキ まあ、そんなわけで、ちよつとしばらく二人で厄介になると思うんで。

トモゾウ そつか……まあ、しょうがないよね？ たまには実家で骨休みでもしてきな。

サトル ホント、すみません、あの、迷惑はかけないようにするんで。

ハルアキ 言ってもらえれば、こいつなんでもするんで、皿洗いでも何でも。

サトル あつ、でもオレ、手荒れがヒドイから。

ハルアキ そつか……じゃあ、接客とか。

土屋 いいよいいよ、人手は足りてるから。

ハルアキ ホント？

サトル いや、けどタダ飯食うわけにもいかないんで、ホント何でもするんで。

ネズミが走り回る音。

一同 あっ！

トモゾウ、すかさずモップで柱をたたく。

ハルアキ 大丈夫なの？ これ。

サトル 食つてるときに出てきたらマズイっしょ。

土屋 あっ、じゃあさあ、ネズミ駆除とか。

ハルアキ・サトル えっ？

トモゾウ ああーいいかもね、せっかくだし。

土屋 ネズミ駆除やらない？

サトル あっ、いいっすよ。

土屋 ホント、困ってんのよ。

サトル あの、何でもするんで。

土屋 天井裏にさあ、粘着テープ敷き詰めて、一晚経ったらそれ回収するの、そんな難しくないから。

サトル はい、あの、何でもするんで。

ハルアキ マジ？

ナツキが二階から降りてくる。

ナツキ お疲れ様。

サトル あっ、ごちそうさまでした。

ナツキ 食べ終わった？

サトル あっ、はい、すごいウマかったっす。

ナツキ そろそろ夜のお客さん来るからさあ、上上がってもらっていい？

サトル あっ、はい。

ナツキ (ハルアキに) あんたも返事くらいしなさいよ。

ハルアキ はい。

土 屋 ナツキちゃんね、ネズミ駆除してくれるんだって。

ナツキ あっ、そうなの？

サトル はい、何でもするんで。

ナツキ じゃあさあ、定休日だから明日やってもらおっか、さっそく……………。

ハルアキ 明日？

ナツキ うん。

ハルアキ ああー無理無理無理。

ナツキ なんて？

ハルアキ ダンプの代わり探さないと。

ナツキ 車？

ハルアキ ギターギター、来週ライブなんだよ。

ナツキ あんたまだそんなこと言ってるの？ いい加減にしなさいよ。

ハルアキ ……。

ナツキ メンバーに逃げられて……………そんなことやってる場合じゃないでしょ？

ハルアキ ……。

入口から出前帰りのハジメが入ってくる。

ハジメ ただいまー(そのまま厨房に入る)

一同 お帰りー

ワカナ あっ！

一同 ？

ワカナ (トモゾウに) ハジメさん。

トモゾウ ん？

ワカナ ギター。

トモゾウ ああー…… (厨房に向かって) ハジメハジメ。

ハジメ (出てきて) はい？

トモゾウ お前、ギター弾けるって言ってたよな？

ハジメ ああ……まあ……。

ハルアキ えっ？ マジで？

サトル えっ? バンドやってたんすか?

ハジメ バンドっていうか、趣味程度に。

サトル へえー……。

ハジメ フォークなんですけど……。

ハルアキ・サトル えっ? フォーク?

ハジメ はい。

サトル なんだ、全然イケるじゃん!

ハルアキ うちらもフォークだから。

ワカナ えっ? それフォークなんですか?

ハルアキ (フォークギターを出して) ほら。

ワカナ 意外……全然そんな風に見えませんが。

ハルアキ そこが狙いだから……一見へヴィメタかなって思わせといて、実はフォークっていう……。

ワカナ へえー……。

トモゾウ あっ、だけど、ハジメ、店あるからなあ……。

ハジメ そうですね、すみません……。

ナツキ ライブっていつなの?

ハルアキ 来週の水曜。

ナツキ 定休日だからいいんじゃない？

トモゾウ まあ……。

ハルアキ (ギターを出して) ちよい弾いてみてよ。

ハジメ えっ？

ナツキ ちよつとちよつと、お客さん来んだから！ 上行ってやってよ。

ハルアキ もう上がりなんでしょ？

ハジメ ああ……はい。

ハルアキ じゃあ上で聞かしてよ。

ハジメ はあ……。

ワカナ あつ、あたしも聞きたい！

ハルアキ ああーいいいいよ、来なよ来なよ。

サトル じゃあさあじゃあさあ、せつかくだからさあ、みんなで飲まねえ？

ハルアキ あつ、いいねえ！ 酒買ってこようよ、酒。

サトル あつ、でも金ないじゃん。

ハルアキ そっか……。

ナツキ しょうがないわねえ……店のいいわよ。

ハルアキ マジ？ 気前いいな。

ナツキ 今日だよ。

サトル あつ、あとつまみとか欲しくねえ？

ハルアキ ああ、欲しい欲しい。

サトル でも金ないか……。

ナツキ (財布からお札を出して) ほら。

ハルアキ うっほー！

サトル あざいます(ありがとうございます)！

ハジメ すみません。

サトル じゃあ、行こうよ、行こうよ。

ナツキ あつ、じゃあワカちゃんとはジメはもういいわよ、土屋さんも。

ワカナ じゃあ、すみません、お疲れ様でした。

ナツキ・土屋・トモゾウ お疲れ様。

トモゾウ ハジメもいいよ。

ハジメ はい、じゃあ、すみません、お先に失礼します。

ナツキ・土屋・トモゾウ お疲れ様。

ハルアキ 行こうぜ、行こうぜ。

ハルアキ、サトル、ハジメ、ワカナ、去る。

ナツキ まあ、ちょうど良かったわね、みんなで交流深めてさあ、ハジメとかね。

土屋 うん、まあ……。

トモゾウ さてと、オレも頑張つて働くぞー

トモゾウ、厨房に入る。

そのうち鼻歌を歌い始める。

土屋 じゃあ悪いけど、上がらしてもらおうわ。

ナツキ お疲れ様。

土屋、帰り支度をする。

土屋 やっぱハルちゃんも言ってたわよ、味変わったって。

ナツキ そう……………。

土屋 なんか、考えた方がいいかもね……………。

ナツキ そうねえ……………。

土屋 じゃあ、お先。

ナツキ お疲れ様。

土屋、厨房を覗いてみるが、何も言わずに去る。

ナツキ、おもむろに厨房を覗いてみる。

ナツキ ……………トモちゃん。

トモゾウ ん？

ナツキ ちよつと話があるんだけど……………。

トモゾウ ん？

トモゾウ、厨房から出てくる。

トモゾウ 何？

ナツキ あのさあ……。

トモゾウ うん。

ナツキ おそばの味、変えた？

トモゾウ あっ、やっぱ分かる？ えっ？ どうどうどう？

ナツキ いや、あたしはまだ食べてないんだけど……。

トモゾウ えっ、じゃあつくろっか？

ナツキ ああー、うん。

トモゾウ 何にする？

ナツキ もりでいいや。

トモゾウ おお、了解了解。

トモゾウ、厨房に入る。

ネズミが走る音がする。

ナツキ (天井を見上げ) はあ……。

入口の引き戸が開き、宇田川が入ってくる。

ナツキ あつ、いらっしやいませ。

宇田川 すみません、女将さん、いらっしやいますか？

ナツキ ああ、私ですけど。

宇田川 あつ、南ナツキさん。

ナツキ はい、そうですけど。

宇田川 あつ、申し遅れました。(と名刺を出しながら)私、こういうものです。

トモゾウ、ちよつと顔を覗かせる。

ナツキ あのー事件のことなら、何もお話することはありませんから。

宇田川 事件のことについていうよりもですね、協力雇用主の件でちよつと……。

ナツキ はい？

宇田川 亡くなったご主人、犯罪者の更正支援やられてましたよね？

ナツキ ええ、まあ。

宇田川 このお店にも、それで働いてらっしゃる方いらっしゃいますよね？

ナツキ あの、どういった経緯でお調べになったか知りませんが、うちあまりそのことオープンにしてないですよ？

宇田川 えっ、そうなんですか？

ナツキ すみません。

宇田川 あのー……ナツキさん、加害少年の死刑に反対されてますよね？ お父さん殺した。

ナツキ ……ええ、まあ。

宇田川 ご遺族の方が、なんていうか、すごく珍しいなって思うんですけど……いや、あのほら、フツー、極刑を求めますよね？ 遺族の方って……少年に対する憎しみというか、そういうものはないのになって……。

トモゾウ (小窓からそばを出しながら) はい、もり一枚。

宇田川 あっ……。

トモゾウ あんた、いい加減にしろよ！

宇田川 ナツキさん、どうですかね？

トモゾウ、厨房から出てくる。

トモゾウ (塩をまきながら) いい加減にしろつつつてんだろーがよー。

ナツキ トモちゃん！

宇田川 (塩を浴びながら) ウワツ！ また出直してきます。

トモゾウ 早く帰れ！ この野郎！

ナツキ ちよつとやめなさいよ。

宇田川 じゃまた。

宇田川去る。

トモゾウ、だめ押しで入口付近に塩を蒔き散らす。

トモゾウ バーカ！

トモゾウ、店の中に入り、ドアを閉める。

ナツキ もう！ 乱暴なんだから。

トモゾウ しつこいんだよ、あいつ。

ナツキ もうー塩だらけ……。

トモゾウ ちよつとやりすぎたかな……。

ナツキ、塩をホウキで掃く。

ナツキ 別に隠す必要ないのかもしれないけどね。

トモゾウ えっ？

ナツキ みんな真面目に働いてるわけだし……トモちゃんも、ハジメも……そう素直に言ってやれば良かった……後ろめたくなる必要なんて全くないのに……。

トモゾウ おれ、そばのことだったら取材受けてもいいけどね。

ナツキ えっ？

トモゾウ 実際にオレのそば食ってもらってさあ、こんな旨いそばつくるような人間になったんだって……なんかい記事になりそうじゃん。

ナツキ ああー……。

トモゾウ まあでも、聞きたいのは事件のことなんだろうけどな……。

ナツキ まあ……。

トモゾウ (そばを出して) ほら、食べなよ。

ナツキ あっ、うん、いただきます。

ナツキ、そばを口にする。

トモゾウ どう？

ナツキ あれ？ なんかおいしい。

トモゾウ だろ？

ナツキ、旨そうにそばを食べる。

ナツキ えっ？ どうしちゃったの？ これ。

トモゾウ うん、いろいろ研究を重ねてね……実はそば粉からひいてんだよ。

ナツキ えっ？ そうなの？

トモゾウ うん。

ナツキ どこで？

トモゾウ 知り合いのそば屋が、機械もっててさあ、ちよつとそれ借りて挽いたりして。

ナツキ へえー……なんか全然変わるモンね。

トモゾウ できあ、ちよつと相談というか、なんというか……。

ナツキ 何？

トモゾウ ちよつと言いくいんだけど、オレ……独立しようと思ってるんだよね。

ナツキ えっ？

トモゾウ そろそろ、自分のそば屋を持ちたいなって。

ナツキ えっ？ ちよつとどういふことよ。

トモゾウ おやさん亡くなって、いろいろ考えたんだけど、オレ、どうしても自分のそばが作りたくて……

いや別に、おやさんのそばが悪いとか、そういうわけじゃないんだけどさあ、自分でそば挽くところからやらないとダメで……。

ナツキ そうなんだ……。

トモゾウ でもそうになると、設備にもすごいかかるし……。

ナツキ いやだけど、トモちゃん、自分で店もって、その資金どうすんの？

トモゾウ ずっとコツコツ貯めてて……あと、オレのそば気に入ってくれて、少しばかり援助してくれる人もいて……。

ナツキ そういうことか……。

トモゾウ だから、ナツキちゃん……来年で、店やめさせて下さい。

ナツキ ええ、ちよつと待ってよ、そんな急に……困るわよ……だって、トモちゃんいなくなったら、店回らなくなっちゃうし……そしたらもう店じまいするしかないじゃない。

トモゾウ いや、そんなことは絶対させない……やめるまでに、ハジメに全部仕込もうと思ってるから、オレが旦那さんから受け継いだ味とか技術とか……。

ナツキ ええ、でも……ハジメでしょ？

トモゾウ 大丈夫だよ、あいつ、ちよつと不器用だけど、人一倍真面目だし、もうそば打ちもやれるようになって、あと半年あれば充分一人で回せるようになるって。

ナツキ いや、あの、そうじゃなくてね。

トモゾウ 何？

ナツキ いや……ちよつと……どうしようかなあ……。

トモゾウ 何だよ。

ナツキ あのね、今から話すこと、あたしと父さんしか知らないことだから、絶対に口外しないでもらいたいんだげど……。

トモゾウ うん。

ナツキ ハジメね。

トモゾウ うん。

ナツキ 彼実は……………。

トモゾウ うん。

ナツキ ほら、十数年前にあつたでしょ。

トモゾウ 十数年前？

ナツキ 九七年……………。

トモゾウ 九七年？

ナツキ 神戸で。

トモゾウ 神戸……………えっ？ まさか……………。

ナツキ (うなづく)

トモゾウ ええーっ！？ ちよつ、ちよつ、マジ！？

ナツキ ちよつと落ち着いてよ。

トモゾウ えっ？ マジ？

ナツキ ホントダメよ、誰にも言つちや。

トモゾウ 言わない言わない。

ナツキ マスコミに嗅ぎつかれたら大変なことになるんだから。

トモゾウ まさか、こんなすぐ間近にいるなんて……おやじさん、すっげえ大物ひいちやったなあ……。

ナツキ くじ引きみたいに言わないでよ。

トモゾウ ゴメン……。

ナツキ これまで何度かよそで就職してたらしいんだけど、すぐ素性が明らかになっちゃって、その度に住居とか職場とか転々として、名前とかも変えて……そういうわけだから、いつまたそうなるか……。

トモゾウ なるほど……。

ハルアキ、サトル、ハジメ、ワカナが買い物袋をぶら下げて戻ってくる。

ハルアキ ただいまー。

ナツキ・トモゾウ お帰りー。

ハルアキ なんだよ、客一人もいねえじゃん。

ナツキ まだ早いから。

ハルアキ ビールいい？

ナツキ ああーはい。

ワカナ あつ、あたしやります。

ワカナ、冷蔵庫からビールを取り出す。

ハジメもグラスを用意したりする。

ハルアキ なんならここで飲んでもよくねえ？

ナツキ ダメよ、そんな顔して、他のお客さん逃げちやうでしょ。

ハルアキ 人を見た目で判断しちゃダメなんだよ。

ナツキ 世の中ってそういう風にできてんのよ。

ハルアキ つつーか客いないし……。

ナツキ ちよつとだけよ。

ハルアキ よっし！

ワカナ いつもそういう頭してんですか？

ハルアキ まあね。

ワカナ 大変ですね。

ハルアキ だってほら、いつチャンスあるか分かんないじゃん？ こういうとこにさあ、レコード会社のエライ

人とかくるかもしれないじゃん。

ワカナ えっ? くるんですか?

ハルアキ 常に臨戦態勢にしといてさあ、いざっつー時には、どうも極悪同盟っす、フオークやってます、つつたらさあ、へえー、それでフオークなんだ、面白いね、君たち、って話に絶対なるから。

サトル うん、それだけでインパクトデカイよね?

ワカナ なるほどー。

ビールの準備ができる。

ハルアキ せっかくだからさあ、トモちゃんと姉貴も、飲んだら?

ナツキ 仕事中だから。

ハルアキ 乾杯だけ。

ナツキ まあ、じゃあちよつとだけ。

ワカナ (ナツキにビールを注いで) どうぞ。

ハジメ (トモゾウにビールを注いで) トモさん、どうぞ。

トモゾウ ああー……: : : ありがとうがと。

ハルアキ　じゃあ、これからお世話になるっつーことで、よろしくお願いします。カンパニー！
一　同　カンパニー！

一　同、ビールを飲み干す。

ハルアキ　プハツ、ウメー。

入口が開き、フユコが入ってくる。

ナツキ　あら。

フユコ　こんばんは。

ハルアキ　おお、フユねえ、久しぶり！
(サトルに) 姉貴姉貴。

サトル　ああー、お世話になります。

フユコ　あんた、帰ってきてたんだ。

ハルアキ　うん。

フユコ　(清水に) どうぞ。

ナツキらの父と共に殺された高校生・清水ノブオの母親・清水ヤスコが入ってくる。

清水　こんばんは。

一同　こんばんは。

清水　(ハルアキとサトルを見て) あっ……………。

フユコ　あっ、あの、弟です。

清水　ああ……………。

ハルアキ　こんばんは。

清水　こんばんは。

フユコ　バンドやってるんで……………。

ハルアキ　フオークバンドなんで……………。

清水　はっ？

フユコ　どうぞどうぞ(中へ)。

ナツキ　あれ？　どちらかで……………。

フユコ　(ナツキに) 清水ノブオ君のお母さん。

ナツキ　ああ……………。

清水 どうも、ご無沙汰しております。ノブオの母でございます。

ナツキ ああー、どうも、葬儀の日以来でしたよね？ なんかすっかりご無沙汰してしまつて…… (ハルアキに) ちよつと上行つて。

ハルアキ はい。

ハルアキ、サトル、ハジメ、ワカナ、ビール瓶を持って二階へ上がる。

ナツキ どうぞどうぞ、おかけ下さい。

清水 失礼します。

清水とフユコ、イスに座る。

ナツキ、コップに水を汲んで、清水とフユコに出す。

清水 お賑やかでうらやましいですね。

ナツキ いえね、弟が久々に帰ってきてまして。

清水 家なんて、あの子亡くなってから、毎日がお通夜みたいで。

ナツキ
はあ。

清水
お恥ずかしながら、主人、あの事件以来、ずっと部屋に閉じ籠もったままでして……会社も辞めて
しまいました……。

ナツキ
そうなんですか……。

清水
あの子にかける期待がものすごかったものですから、それを失ったショックというのは、もう、計り
知れないものがあるようでして……。

ナツキ
はあ……。

清水
主人も学生時代にサッカーやってましてね、もう一步のところまでプロになるのあきらめて……その
夢あの子に託して、ホント幼い、まだボールに転がされていたようなそれはそれは小さな頃からやり
はじめましてね、サッカー、親子二人三脚でやってきて、あたしもそれをサポートして三人四脚でや
つてきて……これからだっていう時に……(涙ぐむ)。

ナツキ
……。

清水
久々に涙が出てきました。涙ってホント枯れるんですよね？

ナツキ
(テッシュを出して) どうぞ。

清水
すみません……(涙をふきながら) 下に妹がいるんですけど、中学生なんですけどね、ノブオより
も少しデキが悪いと申しますか……ちよつと難しい年頃でして……顔合わせれば親子喧嘩のよう

な状態になってしまつて……元はとても素直でいい子だったんですよ……ノブオとも仲良くて、ノブオのことものすごい慕つていて……それはそれは仲の良い兄妹で……なのに……あの子いなくなつてから、そのバランスが崩れてしまつたみたいで、家の中ボロボロになつてしまつて……。

二階から笑い声が聞こえる。

清水 いいですね、笑い声……半年ぶりに聞きました。

ナツキ すみません……。 (止めに二階に行くとする)

清水 いいんです！ 止めないで下さい。こんな私の話に引きずられて、南さん家まで暗くなることないじゃないですか……。お二人とも被害者の遺族なんですから、同じ仲間じゃないですか……。

二階から、ビールをこぼしてしまつた時のリアクションが聞こえる。

一同の声 あーあーあー！

ワカナの声 ヤツ、冷たい。

ハルアキの声 もう何やってんだよー！！

サトルの声　ゴメンなさい。

ハルアキの声　ちよっと、布巾布巾。

ハジメの声　はい。

ハジメ、下に降りきて、そっと入るタイミングをうかがう。

ナツキ　すみません。

清水　なんで謝るんですか？　謝るのはあの少年の方ですよ……いえ、謝るだけで済むものですか！　八つ裂きにして皮ひん剥いて、目ん玉潰して……それでも足りないくらいですよ……なんであの子が……あんないい子が……。

ナツキ　……。

フユコ　お姉ちゃん、分かる？　この気持ち。

ナツキ　……。

フユコ　あたしだって同じ気持ちよ、あんなだけ非行少年たちの社会復帰のためにさあ、一生懸命やってきたのにさあ……よりよって、少年に殺されるなんて……こんな皮肉なことないじゃない……そろそろ隠居して、残りの人生楽しもうってそういうことも言ってたのよ……それなのにさあ……。

ナツキ ……。

フユコ ましてや、ノブオ君なんて、十七になったばっかりよ……いろんな可能性があつてさあ、もしかしたら日本代表するJリーガーになってたかもしれないのよ……なんの権利があつてその可能性潰せるわけよ。

ナツキ ……。

フユコ 分かる？ お姉ちゃん遺族でしょ！ お父さんが殺されたんだよ！

ナツキ それは分かるわよ！

フユコ だったら、なんで少年の弁護側の証人になったりするんのよ！ 死刑回避を求めたりすんのよ！

清水 (号泣する)

二階からギターにのせてこの場に相応しくない不謹慎な曲(例えば、ザ・フォーククルセダーズの「帰って来たヨッパライ」など)の歌声が聞こえてくる。

ナツキ、止めようと二階に行こうとする。

清水 止めないで！！ 楽しそうでいいじゃないですか……。(号泣する)

フユコ なんなのよ、おかしいでしょ！

清水 (号泣する)

ナツキ ……。

ハジメ、姿を見せ、布巾をとる。

ハジメ すみません……。

ナツキ ちよつと、あんま騒がないように言つて。

ハジメ あつ、はい。

清水 いいんです！ 騒いで下さい！ (号泣する)

二階からギターにのせた不謹慎な歌声が聞こえてくる。

清水、再び号泣する。

ハジメ すみません……。

トモゾウ、厨房入口から少し姿を見せる。

暗
転。

◎第三場

前場の翌々週、南海亭の定休日（水曜）の昼間。

同じく南海亭の店内。

真ん中のテーブルでナツキが雑誌を読んでいる。

下手側の見えないところで、ハルアキ、サトル、ハジメがネズミ駆除をしている。

サトルの声 あともう二枚くらいかな？

ハルアキの声 ういつす、あと二枚。

ハジメの声 （粘着シートを渡しながら）はい。

電話が鳴る。

ナツキ、電話に出る。

ナツキ はい南海亭です……もしもし……もしもし？（通話が切れる）何よ……。

ナツキ、受話器を置いて、席に座り、再び新聞を読み始める。

ハジメの声 どうですか？

サトルの声 もう一枚かな。

ハルアキの声 ういっす、あと一枚。

ハジメの声 (粘着シートを渡しながら) はい。

ハジメ、下手から出てきて、粘着シートを一枚持って下手へ去っていく。

再び電話が鳴って、またナツキが出る。

ナツキ はい南海亭……もしもし……もしもし……もしもし？(通話が切れる) ったく……。

ナツキ、受話器を置いて、席に座り、再び新聞を読み始める。

サトルの声 ヨッシャー、完了！

ハルアキの声 おーお疲れー！

ハジメの声 お疲れ様です。

ハジメ、下手から出てくる。

ナツキ 終わった？

ハジメ はい。

ナツキ ごくろうさん。

入口から土屋が差し入れのジュースやらお菓子やらが入ったスーパーの買い物袋を持ってやってくる。

土屋 こんにちはー。

ナツキ ああー、どうぞどうぞ。

ハジメ こんにちは。

土屋 悪いわね、休みの日に。

ナツキ 別にいいわよ。

土屋 (差し入れを出して) これ、みんなで食べて。

ナツキ あらーいいのに……。

ハジメ ありがとうございます。

土屋 ネズミ、どんな感じ？

ハジメ ちょうど今終わりました。

土屋 そう、お疲れ様、悪いわね、手伝えなくて。

ハジメ いいわよ、休みなんだから。

ナツキ ハジメも悪いわね。

ハジメ いえいえ……。

電話が鳴る。

ナツキ、電話に出る。

ナツキ はいもしもし南海亭です……もしもし……もしもし……(通話が切れる)……。

ナツキ、受話器を置く。

土屋 またイタ電？

ナツキ うん、さっきつから何遍も。

土屋 多いわね、最近。

入口からワカナがやってくる。
ちよっといつもよりオシヤレした感じである。

ワカナ こんにちは！

ナツキ あらワカちゃん。

土屋 あれ、どうしたの？

ワカナ ちよっとこれから……。

ハジメ あつ、もうちよっと待ってて。

ワカナ うん。

下手からハルアキとサトルが出てくる。

メイクもヘアメイクも落としたフツーの人になっている。

ハルアキ お疲れー。

サトル お疲れ様です。

ナツキ ごくろうさん。

ハルアキ あっ、ワカちゃん。

サトル ういっす。

ワカナ えっ？ ハルさんですか？

ハルアキ そうだよ。

ワカナ えっ？ サトルさん？

サトル うん。

ワカナ どうしちゃったんですか？ フツーじゃないですか！

ナツキ そっか、ワカちゃん、二人の素顔知らないんだ。

ワカナ こんな顔してたんだ……。

ハルアキ やっぱ違う？

ワカナ えっ、ちよつと、ハジメさんも並んでみてよ。

ハルアキ、サトル、ハジメ、一列に並ぶ。

ワカナ ブル、クレーン、シヨベル……うわっ、なんか極悪同盟なのにフッー。

ナツキ なんか凡庸ねー……背格好も一緒だし。

ワカナ これじゃあ、まるでフォークグループですね。

ハルアキ フォークグループだから。

ワカナ そっか……。

サトル やっぱ、これじゃあ売れないよな……。

ナツキ 天井裏はどんな感じ？

ハルアキ ああ、もう完璧だよ。

サトル 隙間なく、ビッシリ敷き詰めましたんで。

ナツキ そう、明日が楽しみねえ……粘着シートの上でさあ、ネズミが身動きとれなくなっ、そのうち息

絶えて……。

ハルアキ うわー……。

サトル えっ？ 粘着シートって、そういうやつなんすか？

ナツキ そうよ、なんだと思ってたの？

サトル いや、ネズミがああネバネバで寄りつかなくなるのかなって……。

一同 えっ？

ハルアキ クレーン、お前バカだな。

サトル はあ？

ハルアキ いっちゃあ、あれゴキブリホイホイだよ、ネズミ用の。

サトル ええっ……。

ナツキ それあんた達回収すんだからね。

ハルアキ・サトル えっ？

サトル それもおれらがやるんでしたっけ？

ナツキ 当たり前でしょ。

ハルアキ マジかよ……。

ナツキ なんでもやるんでしょ？

サトル ああ、はい。

ナツキ すぐ回収しないと、夏場だし……ネズミが腐って、ニオイとか蠅とか……すごいことになっちゃうから。

サトル マジすか……。

ナツキ よろしくね。

ハルアキ・サトル はい。

ナツキ 土屋さんから差し入れもらったから。(袋を見せる)

ハルアキ おおー。

土屋 どうぞ、食べて。

サトル あざいます！(ありがとうございます)

ナツキ 着替えてらっしゃいよ。

ハルアキ・サトル ういっす。

ハルアキ、サトルは二階へ行く。

ハジメ じゃあ、僕はそろそろ。

ナツキ あら？ 行っちゃうの？

ハジメ すみません。

ナツキ 何？ 今日はどこ行くの？

ワカナ その辺ブラブラ。

ナツキ あらあ……ブラブラしたあとは？ ラブラブ？

ワカナ ヤダーやめて下さいよ！

ナツキ 楽しんできてね。

ワカナ はい。

ハジメ じゃあ、すみません、お先失礼します

ナツキ ホントありがとうね。

ハジメ いえいえ。

ワカナ 失礼します。

土屋 行ってらっしゃい。

ハジメとワカナ、去る。

ナツキ ハジメも随分変わったわよね。

土屋 うん……そうね。

ナツキ ハル帰ってきて良かったかもね……ケガの功名っていうか……。

土屋 ああ……そうかもね……。

ナツキ ……。

土屋 ……。

ナツキ ……で、どうしたの? 今日は……改まって、話って……。

土屋 ああー……いや……あのね。

ナツキ うん。

土屋 ちょっと聞きたいことがあってさあ……。

ナツキ うん……何?

土屋 あのさあ……。

ナツキ うん。

土屋 このお店にさあ。

ナツキ うん。

電話が鳴る。

ナツキ・土屋 あっ……。

ナツキ ちょっとゴメン。

ナツキ、電話に出る。

ナツキ

はい南海亭です……はい……はい……はい……あの、もしもし？　どういう意味ですか？
あの失礼ですけど、どちら様ですか？　私は娘です……はいイチロウの……はい？　あのもしもし？　そうじゃないですよ……いえ、あなた誤解してますよ……そういう問題じゃないでしょ……なんで遺族だと、イヤ、だから違うでしょ？　あの、すみません人の話聞いてもらえますか？
もしもし？　いやですから……いやそうじゃなくて……もしもし？　あなたねえ……それはちよつと、あつ……(通話が切れる)……クッソー……。(受話器を置く)

土屋

なんて？

ナツキ

裏切り者、お前は遺族だらつて……だから何なのよ……。

土屋

……。

ナツキ

ああ、つていうか、ゴメン……なんだっけ？

土屋

ああ……。

ナツキ

このお店が……どうしたの？

土屋

ああ……やっぱいいわ。

ナツキ

えっ？　いいの？

土屋

うん……そんな大したことじゃないから。

ナツキ

そうなの？

土屋 うん……そんなことよりさあ、読んだわよ、今朝の新聞。

ナツキ ああー……。

土屋 大丈夫なの？ あんなこと言っちゃって……。

ナツキ まあ……。

土屋 ナツキちゃん人が良すぎるわよ、あんな残忍なことしたら当然死刑でしょ、フツ……なのに、犯人庇うなんて……。

ナツキ ……。

土屋 お富さんも言ってたけど、なんかパソコンがすごい燃えちゃってるらしいじゃない、炎上っていうの？

うちパソコンないから、詳しいことよく分かんないけど……なんかすごい言われてるらしいわよ。

ナツキ うん、それは分かってるけどさあ。

土屋 だったらさあ、もういいじゃない……一審で死刑判決出てるんだし……あの少年がやったに決まってるんだから……。

ナツキ でもさあ、みんなそれ誤解してんのよ。

土屋 だから何が誤解なのよ。

ナツキ だからさあ……確かに、最初にナイフで清水君を脅したのはあの少年なんだけど……。

土屋 だから、脅して抵抗されたから、そのまま刺しちゃったんでしょ？

ナツキ だからそれが違うのよ。

土屋 ええ………？

ナツキ だから………ちよつと土屋さんいい？

土屋 ん？

ナツキ あたしが少年で、土屋さん、清水ノブオ君ね。

土屋 えっ？

ナツキ (割り箸をとって) これナイフ。

土屋 ああ………はい。

ナツキ (再現しながら) こう、少年がまず脅して………こう………それで清水君が抵抗して………抵抗して。
で。

土屋 えっ？

ナツキ おら、金出せよ、持ってんだろ？

土屋 えっ？

ナツキ 抵抗して、抵抗。

土屋 ああ………やめろよ、やめろよ。

ナツキ で、二人が揉み合ってる内に、ノブオ君が少年のナイフを奪う。

土屋 (再現しながら) はい、奪った。

ナツキ で、そのままノブオ君が少年に馬乗りになって……馬乗りになって、馬乗りになる)

土屋 あっ、はいはい(ナツキに馬乗りになる)

ナツキ そしたら、そこへ父さんが現れて。

富永が入口から入ってくる。

富永 こんにちはー。

ナツキ あっ、お富さん、ちょうどいいところに来た。

富永 何？

ナツキ お富さん、うちの父さんやって？

富永 ハッ？

ナツキ これ止めに入って。

富永 えっ？

土屋 これ、止めて、これナイフだから。

富永 いや、ちょっと、やめなさいやめなさい。

ナツキ で、その父さんを、少年の仲間だと思った清水君。

土屋 えっ？

ナツキ お富さんを敵だと思って、敵。

土屋 えっ？ うわっ、敵だ！

ナツキ ヤバイっ！ やられる！ そう思った清水君は。

土屋 ヤバイっ！ やられる！

ナツキ 自分の身を守るために無我夢中で父さんをメッタ刺し。

土屋 おりゃー！！(メッタ刺しのマネをする)

富永 うわー！！

ナツキ で、それを止めに入った少年と清水君が揉み合う。(土屋と揉み合うマネ)

土屋 やめろよやめろよ。

ナツキ で、そうこうしてる内に、少年が清水君の胸を一刺し、グサッ！

土屋 うおー！！

ナツキ 倒れる清水君。

土屋 うう……。 (土屋、倒れる)

富永 えっ？ じゃあ、オヤジさん殺したの、清水君ってこと？

土屋 ええっ!?

富永 ちよつとちよつとナツキー、もういい加減にしなさいよ! そんなことあるわけないじゃない……
もう……新聞見たけどさあ、何? あの犬弁護団……死刑反対の……ナツキー利用されてる
だけなんだって……あんなコロツと言ひ分変わっちゃって……最初に認めたでしよ、全部自分が
やったって。

ナツキ いや、でもそれはね……。

富永 駅前ですってんじやない……清水君のお母さん、ものすごい形相で、極刑しかありえませんか、
涙ながらに……ほら、ナツキーも見習って!……フユちゃんもやってるでしよ。

土屋 そうよ、ナツキちゃん、二人とも姉妹なんだから……。

ナツキ ……。

富永 いいじゃない、もう死刑で……ねっ?

土屋 うん、今更蒸し返す必要ないんじゃない?

ナツキ ……。

富永 もう……ホント、オヤジに似て頑固なんだから。

ナツキ ……。

また電話が鳴る。

ナツキ あっ…………。

土屋 あたし出よつか？

ナツキ 大丈夫。

ナツキ、電話に出る。

ナツキ はい南海亭です…………。(通話が切れる)…………。(受話器を置く)

土屋 またか…………。

富永 何？ イタ電？

土屋 うん。

また電話が鳴り、ナツキすぐに出る。

ナツキ もしもし？…………。(通話が切れる)…………。(受話器を置く)

また電話が鳴る。

富永 あっ………(ナツキを制して) 任せて。

富永、受話器を上げて即座に切る。

ナツキ・土屋 あっ！

富永 オッシャー！

ナツキ お富さん！

富永 いいからいいから。

また電話が鳴る。

富永、またすぐ切る。

間髪入れずに電話が鳴る。

富永、またすぐ切る。

こういったやりとりが何回か繰り返される。

富 永 しつこいわね……。

土 屋 受話器上げといたら？ しばらく。

ナツキ そうね(受話器を上げたままにする)

富 永 でもこれだとさあ、なんかイタ電がかかってくるから受話器上げてるみたいで勘繰られて、イヤじゃ

ない？

土 屋 だって実際そうじゃない。

富 永 なんかでも、負けてるみたいで悔しいじゃない。

ナツキ 別に勝ち負けじゃないから。

富 永 あっ、出前はどうすんの？

土 屋 今日定休日だから。

富 永 そっか……。

ナツキ、お菓子のセッティングを始める。

トモゾウが入口から入ってくる。

トモゾウ こんにちはー。

富 永 こんにちはー。

ナツキ あら、トモちゃん。

トモゾウ お疲れさん、順調？ ネズミ狩り。

ナツキ うん、もう終わったみたい。

トモゾウ そうなんだ。

ナツキ どうしたの？

トモゾウ いやちよつと、いいそば粉手に入ったからさあ、試しに打ってみようかって思って。

ナツキ そうなんだ……。

トモゾウ うまくいったらあとで出すからさあ、食ってみてよ。

ナツキ ああ、はいはい……。

トモゾウ、厨房に入る。

富 永 あらあら……ああやって味変えられていくんだねえ……。

ナツキ ……。

トモゾウが小窓から顔を出す。

トモゾウ　ちよつとさあ、音楽かけてもいいかなあ。

ナツキ　ああー……いいわいいわよ。

トモゾウ　テンション上がっからさあ。

ナツキ　どうぞどうぞ。

トモゾウ、厨房の中に顔を戻す。

厨房の中から音楽(長瀏剛)が流れてくる。

富永　ウワッ、長瀏……あれだとさあ、長瀏みたいなそばになっちゃうわね。

土屋　えっ? どういうそば?

富永　長瀏そば。

ナツキ・土屋　……。

富永　っていうかさあ、ちよつとあたし小耳に挟んだんだけどさあ……。

ナツキ　何?

富永 二丁目の竹中さんいるでしょ。

土屋 ああ、いつも出前とる。

富永 その奥さんと、ヤツ(トモゾウ)……。 (デキてるという身振り)

土屋 えっ?……そうなの?

富永 うん。

ナツキ ええー……まさか……。

富永 あたし聞いたんだから、竹中さん家の隣の吉田薬局のマリ子の妹のサユリから。

ナツキ 吉田薬局のサユリちゃんでしょ?

富永 まあね。

土屋 えっ? なんて?

富永 毎日昼過ぎくらい一同じ時間帯に、ヤツが竹中さんとこやって来て、三十分位いて帰ってくんだって。

土屋 それ出前じゃない! 竹中さんとの出前、(少し大声で)いつもトモちゃん……。

富永・ナツキ シーツ!

トモゾウ (顔を出して) ん? 呼んだ?

一同 いやいやいや……。

富永 あの……トモちゃんって、華原朋美よ、華原朋美……。

トモゾウ ああ、そつちのトモちゃんね……紛らわしいな……。

トモゾウ、厨房に顔を戻す。

富永 だから、その出前のどきくさに紛れて……。

土屋 ああーそういえば、ついでに休憩とつてる。

富永 でしょ……。

ナツキ ええー……ちよつと考え過ぎじゃない？

富永 近所ですつごい噂なんだから……出前ついでにそういうなんていうの？ 真昼の情事？ マズイでしょ？ ピンク映画じゃあるまいし……。

土屋 ピンク映画？

富永 洗濯屋とかクリーニング屋とか。

土屋 一緒じゃない？

富永 いかかわしいのあるでしょ。

ナツキ だけどさあ、もし仮に三十分いたとしてもよ、なんか、ご飯とか食べてるだけかもしれないじゃない。

富永 そんないい大人が、ご飯だけで済むわけじゃない。

土屋 ヤダー…………。

ナツキ 考えすだつて…………。

富永 これじゃあ、そばの味も変わっちゃうわけだ。

土屋 ピンクそば？

ハルアキ、サトルが下に降りてくる。

ハルアキ あつ、こんにちはー。

富永 こんにちはー。

サトル こんにちは。

ナツキ どうぞ、どうぞ、食べて食べて。

ハルアキ、サトル、座って、ジュースの入ったグラスを手取る。

一同 いただきますーす。

ナツキ お富さんもよければ。

土屋 どうぞどうぞ。

富永 ああ、ありがとう。

ハルアキ あれ？ トモチちゃんいの？

ナツキ あっそうだ……。 (厨房に入っって) トモチちゃん？ <※お菓子あるから、良かったら>

サトル なんで長渕なの？

富永 テンション上がったって。

ハルアキ あれ？ ハジメとワカちちゃんは？

ナツキ その辺ラブラブ。

富永 ラブラブ！？

土屋 ブラブラブでしょ。

富永 なんだ……。

サトル いいなあ……オレもラブラブになりてえなあ……。

ハルアキ しかし良かったな、あいつ誘っついて。

サトル そうだな……ライブもかなり盛り上がったしな。

ハルアキ ダンプより全然ウメーし、ギター。

富永 すごかったわよねえ……あのハジメが、あんな才能あるなんて思わなかった。

土屋 あれ? お富さん、ライブ行ったんだ。

富永 行った行った、もう次の日筋肉痛よ。

ハルアキ お富さん、盛り上がったたよね。

ナツキ 筋肉痛って……何したの?

富永 いや、こう……。(**こぶしを振り上げる動作**)

土屋 はしやぎ過ぎよ。

富永 だってハジメが煽るんだもん。

ナツキ そんなすごかったんだ……。

サトル つーかヤツ、なにげにスゲーつすよ、ただもんじゃねえつすね、ありや。

ハルアキ そば屋やめちやえばいいのにな。

ナツキ ちよつとダメよ! 休みの日だけって約束でしょ。

ハルアキ 冗談だよ、冗談。

ナツキ ハジメはねえ、あんたと違って、一人前のそば職人になるんだからね。

入口から宇田川が入ってくる。

宇田川 ごめんください。

土屋 あっ……。

ナツキ あっ……どうも……。

宇田川 こんにちは。

富永 あらあ？ こないだの……。

宇田川 ああ……どうもどうも、先日はありがとうございました。

富永 いえいえいえ……読んだわよ、記事。

宇田川 あっ、ありがとうございます。

富永 あっ、そうそうそう……一箇所間違ってたわよ。

宇田川 えっ？ どこですか？

富永 土屋さんの息子さん、中二の……パートの。

宇田川 ああー。

富永 引き籠もりじゃないから。

宇田川 あっ、そうでしたっけ？

富永 ただ親と最近あんま口聞かないっただけだから。

宇田川 ああ、そうなんですか？

富永 ねえ、土屋さん。

土屋 ああ、はい…………。

富永 ほら…………ちゃんと真実伝えてくれないと…………。

宇田川 すみませんでした…………。

ナツキ あの、今日お休みなんですけど…………。

宇田川 ええ、知ってますけど…………いえあの…………ちよつとすごい情報が入ってきたんで、それについてう

かがいたいと思ひまして…………。

ナツキ すごい情報って…………。

宇田川 サカキバラっていましたよね？

ナツキ えっ？

宇田川 神戸の、あの事件の。

ナツキ ……………。

宇田川 いるらしいんですよ、この街に、あの少年。

一同 ええーっ!?

厨房の音楽が消える。

宇田川 この街で生活してるらしいんです、サカキバラ君。

一同 ええー…………。

ハルアキ マジで？

富永 それ、確かなの？

宇田川 ええ。

トモゾウが出てくる。

トモゾウ おいつてメエ！

宇田川 あっ！

トモゾウ いい加減なこと言ってんじゃねえぞ、コラッ。

宇田川 あれ？ 今日お休みじゃないんですか？

トモゾウ 休みだよ、いちや悪りいかよ！

宇田川 いや…………。

トモゾウ とつとと失せろよ！（塩を撒く）

宇田川 ウワッ！

トモゾウ ほら！（塩を撒く）

ナツキ トモちゃん！

トモゾウ 出てけよ！（塩を撒く）

宇田川 ウツ！

トモゾウ ほら、帰れ帰れ！（塩を撒く）

宇田川 また来ます！

宇田川、去る。

トモゾウ 二度と来んな！ ボケナス！（塩を撒く）

トモゾウ、宇田川の去っていくのを見遣り、扉を閉める。

トモゾウ ったく……はあ……。

一同 ……。

トモゾウ あっ、あんなやつ言うこと、真に受けない方がいいと思うよ。

トモゾウ、厨房に入る。

ナツキ あつ、そうよね？ うん……あんなの、ただのガセネタよ、ガセネタ。

一同 ……。

ナツキ もう……こんなに塩撒いちやつて……。

ナツキ、塩を掃除し始める。

土屋もそれを手伝う。

トモゾウ、荷物を持って、厨房から出てくる。

トモゾウ ゴメン、なんかあんまいそば打てそうにないから、今日もう帰るわ。

ナツキ ああー、いいわいいわよ、全然。

トモゾウ じゃあ、また明日。

一同 お疲れ様ー。

トモゾウ、去る。

サトル (トモゾウの気配が消えるくらい待つて) トモさんって、意外にキレると怖いんすね？

富 永 っていうかさあ……どうなっちゃってんのよ、ちよつと……サカキバラがいるんだってよ。

サトル サカキバラって死刑になったんじゃないかなかったっけ？

ハルアキ 死刑にはなってないだろ、十四だぜ、そんな時。

サトル だって首ちょんばしたじゃん。

富 永 少年院に入ったのよ、それでほら、あんな事件起こしたのに、数年でまた出てきちゃうからさあ……

大騒ぎしてたじゃない、少年法改正とかさあ……

サトル ああ……。

ハルアキ もう出てきてたんだ……。

雷が近づいてくる音。

富 永 あら？ なんか近くない？

土 屋 あつ、そう言えば、今日夕立あるって言ってたわよ。

もう一度、雷が近づいてくる音。

ナツキ あつマズい！ フトン干しっぱなしだ……。

ナツキ、二階へ上がる。

強い雷の音。

一同 ウオツ！

大雨の音。

富 永 ヤダッ、帰れないじゃない……。

サトル すぐ止みますよ。

入口からハジメとワカナが走って入ってくる。

ホンの少しだけ雨に濡れたような感じである。

ハジメ (息を切らせて) お疲れ様です。

ハルアキ あれ? どうしたの?

ワカナ (息を切らせて) 雷鳴ってきて、ヤバイと思って…………。

富 永 あらあら……大丈夫?

ハルアキ 相合い傘持ってるんじゃないの?

ハジメ・ワカナ ええ……。(顔を見合わせて照れる)

サトル なんかつと濡れてんじゃない?

ワカナ ええっ? そんな濡れてないですよ。

サトル いや、濡れてる濡れてる。

ワカナ えっ? 濡れてないですよ。

富 永 何なのよ……若い子が、濡れてるとか濡れてないとか。

ワカナ ヤダッ、お富さん!

サトル だって濡れてんじゃない。

ハジメ ここいても大丈夫ですかね?

ハルアキ ああー、全然大丈夫だよ、入れよ入れよ。

ハジメ すみません。

サトル お菓子食べれば?

ハジメ・ワカナ はーい。

ハジメとワカナ、店の中の方へ入る。

富 永 あっ、そうそうそう……聞いた？ 聞いた？ 聞いた？

ハジメ・ワカナ えっ？

富 永 すっごいビックニュースよ。

ワカナ ビックニュース？

ハルアキ そうそうそう……目ん玉飛び出るよ。

ハジメ えっ？ 何ですか？

富 永 なんとビックリ……この街にね……。

ナツキが二階から降りてくる。

富 永 サカキバラが住んでるらしいのよ。

ナツキ・ハジメ ！！！！

ハジメ (わざと) ええっー!? サカキバラってあのサカキバラですよね?

富 永 そうそう。

ハジメ 神戸の、小学生の首切断して、校門に置いたやつでよね?

ワカナ ああー、知ってる知ってる。

富 永 あれがさあ、この辺いるらしいのよ。

ハジメ・ワカナ ええー…………。

ワカナ ホントですか?

サトル マジ、ヤバくねえ?

ハジメ 怖いですねえ。

サトル ちゃんと戸締まりとかしねえと…………。

ハルアキ バカ、泥棒じゃねえんだから。

サトル そっか…………。

ハルアキ 首守んないと…………。

サトル そっか、首だ首、っーか首泥棒だ!

ワカナ ウワツ、気持ち悪い。

富 永 物騒ねえ…………なんかますます治安が悪くなるわねえ。

ワカナ 事件もありましたしねえ。

富永 監視カメラとかつけた方がいいんじゃない？ この通り一帯にさあ。

一同 ああー。

富永 なんかもあってからじゃ遅いわよ、通り魔とか。

一同 ああー。

サトル パトロールとかもやった方がいいんじゃないすかね？

一同 ああー。

富永 あんたたまにはいいこと言うわねえ……っていうかあんた達でやれば。

ハルアキ・サトル えっ？

富永 なんでもするんでしょ？

サトル オレ手荒れがヒドいんで。

富永 関係ないから。

ワカナ 出てつてもらったりつてできないんですかね？

一同 ああー……。

富永 確かに……それが一番手っ取り早いって言ったたら、手っ取り早いわよね。

ハルアキ でもどうやって？

一同 うーん…………。

サトル 粘着シートとかね。

一同 えっ？

サトル サカキバラの通り道をさあ、粘着シートで敷き詰めてさあ、サカキバラを捕獲すんの。

ハルアキ サカキバラホイホイ？

富 永 ネズミ狩りじゃないんだから…………。

ワカナ それ、サカキバラ以外にも引っかかりますよ。

サトル そっか…………。

ハルアキ 却下却下。

富 永 どこ住んでんのかしらねえ？

ハルアキ 意外にご近所さんだったりしてな。

サトル この店にいたりとか…………。

富 永 誰？

サトル オレ！

一同 ……。

サトル ウツソピョン！

ナツキ　ちよつとちよつとバカなこと言ってるんじゃないわよ。

ハルアキ　バーツカ、オメエに人の首ちよんぱする度胸なんてねえだろ、クレーンの分際で。

ハジメ　じゃあオレ。

一同　……。

ハルアキ　ハジメがサカキバラ？

ワカナ　ええー、何それー。

サトル　でもそしたらオレら売れるかもよ、首ちよんぱした極悪人がいてさあ、まさに極悪同盟って感じじゃ

ん。

一同　ああー……。

サトル　しかもメンバーの一人がサカキバラだよ、ニックネームがシヨベル……もう話題性ばつちしで、マ

スコミに引っぱりだこだよ。

ハルアキ　つーかそれ放送禁止だろ。

落雷の音。

一同　オオーツ！

ナツキ あっ、ハジメ?

ハジメ はい?

ナツキ ちょっと上いい?

ハジメ あっ、はい…………。

ナツキ 手伝ってもらってもらいたいことがあって。

ハジメ あっ、はい。

ナツキとハジメ、二階へ上がる。

サトル つーか…………トモさん、なんであんなムキになってたんすかね?

富 永 ああー、そういえば…………。

サトル すげーキレてませんでした?

ハルアキ ああ…………確かに。

サトル なんか…………どうなんすかね?

一 同 どうって?

サトル いや、なんか…………ねえ?

一同 ん？

土屋 (突然立ち上がり) やっぱ、そう思う？

一同 えっ？

土屋 あたしもね、なんか、怪しいと思ってたのよね？

富永 えっ？ トモゾウが？

土屋 (首を縦に振る)

一同 ええっー！？

ハルアキ まさか……。

土屋 さっきの宇田川さんって人が言ってたんだけどさあ……このお店ね、刑務所上がりの人雇ってたんだって。

一同 ええっー！？

サトル えっ、じゃあ、土屋さんも？

富永 えっ？ 務所上がり？

土屋 はあ？

富永 何やったの？ 盗み？

土屋 ハッ？

富永 暴行？

土屋 いやいやいや……。

富永 麻薬？

土屋 ちよつとちよつと！

サトル 放火？

土屋 あたしは違うわよ！

富永 なーんだ……。

土屋 あたしも誰だかハッキリ分かんないんだけど、とにかくいるらしいのよ……。

一同 ええっー……。

サトル えっ？ ブルそうなの？

ハルアキ えっ？ いや……うん、まあ……。

富永 えっ？ ちよつとどういふことどういふこと？

ハルアキ いや……ホントここだけの話だよ。

一同 うん。

ハルアキ 誰にも言うなよ。

一同 言わない言わない。

ハルアキ　うちの親父、実は年少上がりでさあ。

富　永　年少？

ハルアキ　少年院。

一　同　ええー……。

ハルアキ　昔すっげーワルだったらしくて……そつから立ち直って、修行積んで、この店開いて……まあそういう経歴があるからさあ、自分もなんか、そういう非行少年手助けしたいみたいな感じになつたらしくって……それでオレが高校の時に、そういう人雇うようになって……。

一　同　ええー……。

ハルアキ　おふくろとか、ナツ姉は賛成だったんだけど、フユ姉が大反対で……オレもあんま気が乗らなかつたけど、オレ跡継げねえし、関係ねえやって思ってた……すっげー揉めて……そしたらフユ姉、犯罪者となんか一緒にいれないつつつて家飛び出して……。

富　永　ああー……痴漢もあつたしねえ……。

ハルアキ　それでおふくろ死んで、親父も死んで、ナツキ姉がその跡継いで……今に至ると……。

富　永　うん、それはいいんだけどさあ……で、誰なの？　その犯罪者っていうのは。

ハルアキ　いや、誰がそういう人とかはオレは分かんないんだけどさあ……。

富　永　なによ……役立たないわねえ……。

土屋　でもさあ、トモちゃんのさつきのあのキレ方とか……あと何日か前にもね、宇田川さんに、ぶっ殺

すぞって……。

一　同　ええっー!?

土屋　あんま疑うのも難なんだけど……やっぱりトモちゃんが……。

富永　サカキバラ!?

土屋　かな?　って……。

一　同　ええっー!?

ハジメ、下に降りてきて、様子をうかがう。

暗転。

◎第四場

引き続き南海亭の店内。

前場の翌々日、金曜日の昼時。

客は一人もない。

ナツキが電話を受けている。

トモゾウがそれを傍らで聞いている。

ナツキ

(メモをとりながら) さるそば三つに、もりそば五つ、天井三つ、天ぷらそば五つ、南海そば五つ。

田舎そば五つ、鴨南蛮五つ……以上で、よろしいですか? ……あのー……合計三一人前ですけ

ど、よろしいんですか? ……はい……はい……はい……はい……はーい……ありがとうございます。(電話を切る)

トモゾウ

えっ? そんなに?

ナツキ

うん……。

トモゾウ

細川印刷だろ?

ナツキ

うん。

トモゾウ

多くない?

ナツキ そうよね……。

トモゾウ かけてきたの、奥さん？

ナツキ いや、息子さん。

トモゾウ 息子？

ナツキ なんか、帰ってきてるらしいのよ。

トモゾウ そうなんだ……。

ハジメ、入口から入ってくる。

十人前くらいの出前の品をそのまま持ち帰った様子。

ハジメ ただいまー。

ナツキ あれ？ まさか……。

ハジメ 注文なんかしてないって……。

ナツキ、電話をかける。

ナツキ ……あつ、もしもし？ 細川印刷さん？ 南海亭です……あつ、どうもー……いやあのね、さ

っきの注文の確認なんだけど……あつ、そう……あつ、ゴメンナサイ、ちよつとこつちの手違い
だわ、勘違い……ゴメンナサイね……はい、はい、はい。

トモゾウ クツソー……。

トモゾウ、厨房に戻る。

ハジメ これ、どうしましょう。

ナツキ ……しょうがないから、あたし食べるわ。

ハジメ えっ？

ナツキ ここ置いといて。

ハジメ いいんですか？

ナツキ ハルとかにも食べてもらおうから。

ハジメ あつ、はい……。(出前の品をテーブルに置く)

ハジメ 僕も食べますよ。

ナツキ 延びてるからいいわよ。

ハジメ すみません……。 (厨房へ去る)

ワカナ、手に落書きを消す洗剤や雑巾を持って入口から入ってくる。

ワカナ お疲れ様です。

ナツキ あつ、どんな感じ？

ワカナ ちよつと苦戦してますけど……。

ナツキ そつか……。

ワカナ でも、もう少し頑張ってみます。

ナツキ ゴメンね。

ワカナ、下手の手洗いへ去る。

入口から雑巾を持ったハルアキとサトルが入ってくる。

ハルアキ ちよつとマジ全然消えねえよ。

ナツキ 頑張つてよ。

サトル あの一、ペンキとか塗った方が早くないすかね？

ナツキ 上から白いの塗っても透けて見えちゃうから。

トモゾウが厨房から出てくる。

ナツキ以外に緊張が走る。

トモゾウ ちょっとジュース買ってくるわ。

ナツキ あっ、はいはい。

トモゾウ、去る。

ハジメ、厨房から出てきて、トモゾウを見遣る。

ハルアキ (トモゾウが去ったのを見遣って) っていうかさあ、トモチちゃんに消してもらえば？

ナツキ なんて？

ハルアキ なんてって…… (周りに) ねえ？

一同 ああ……。

ナツキ いいからさあ、四の五の言っていないで、とりあえず消せばいいんだから、早く消してよ。

ハルアキ ええー…………。

ナツキ ほら、頼むから。

ハルアキ はーい…………。

ナツキ ヨロシク。

ハルアキ、サトル、上手へ去る。

ワカナ、下手から出てきて、慌ただしそうに上手に去る。

ハジメ、厨房に戻る。

ナツキ ったく…………居候のクセに…………。

土屋 ナツキちゃん。

ナツキ ん？

土屋 今、いいかしら？

ナツキ ああ…………うん。

土屋 こんな時に難なんだけど…………。

ナツキ うん……………。

土屋 本当は帰りに話そうと思ってたんだけど……………。

ナツキ 何？

土屋 すごく急なんだけど……………店やめさせてもらいたくなって……………。

ナツキ ええっ!？

土屋 ホント、急なのは分かるんだけど、ちょっとあたしこれ以上は……………ゴメンナサイ!

ナツキ ……ちよつと何があつたのよ、ねえ？

土屋 ……。

ナツキ なんか不満とかあるなら、言つてよ、遠慮なく。

土屋 いや……………不満というか……………。

ナツキ 何なの？

土屋 あんまそういう色眼鏡で見るのよくないなつていうのは分かるんだけど……………やっぱあたし、犯罪犯

した人と一緒にやつてく自信がなくて……………。

ナツキ えっ？

土屋 だって、いるんでしょ、このお店、そういう人。

ナツキ えっ？ ちよつとそれ、誰から聞いたの？

土屋 ……。

ナツキ フユコ?

土屋 えっ、いや……。

入口からフユコが入ってくる。

署名活動をしていたような出で立ちである。

ナツキ あっ……。

フユコ ……。

土屋 ちよつとあたし、お手洗い行ってくるわ……。

土屋、下手側のトイレの方へ去る。

ナツキ あんた、どういうつもり?

フユコ はあ?

ナツキ 店のこと、ベラベラベラベラ……。

フユコ 何の話？

ナツキ あんたでしょ？

フユコ だから何の話？

ナツキ しらばつくないでよ。

フユコ しらばつくてなんかいいわよ！

ナツキ あんた……協力雇用主のこと……。

フユコ はあ？

ナツキ それであんな落書きとか、イタズラ電話とか……。

フユコ ちよつと待ってよ！

ナツキ あんたでしょ！ あんたが言ったんでしょ！

フユコ あたしじゃないわよ！

ナツキ ウソつかないで！

フユコ ウソなんかついてないわよ！

ナツキ じゃあ、誰がバラしたのよ！

入口からハルアキが入ってくる。

疑いの目がハルアキに向けられる。

ハルアキ ……？

ナツキ ……あんだあ……。

ハルアキ ええっ？

土屋、戻ってくる。

土屋 宇田川さんよ、週間セブンの。

ナツキ えっ？

土屋 あの人から聞いたの、お店に取材に来て、その時に……だからハルちゃんもフユちゃんも関係ないから。

ハルアキ ……そうだよ、もう……なんだよー、オレが言うわけないじゃん……いやー参ったなあ……。

フユコ そんな……人のこと疑って……。

ナツキ ……ゴメン……。

フユコ ねえ、もう懲りたでしょ？ いいじゃない、もう……お姉ちゃん、充分父さんの意思受け継いでや

ナツキ つて来たわよ……ねえ！ やめようよ、こんなの……無理だつて……。

ナツキ ……。

フユコ 店自体もさあ、ネズミが住み着いちやつて、ボロボロなんでしょ？ 無理して続けることないつて……ハルアキだつて、店継げないわけだしさあ……お姉ちゃんだつて、こんな店背負い込んでたら、いつまで経つても嫁いでいけないし……。

ナツキ ……。

フユコ ほら、ねえ、ハルはどう思うのよ、あんたもなんか言いなさいよ。

ハルアキ ええー……オレは……。

フユコ あんたがしっかりこの家守つていかないと……長男なんだから……いつまでも夢なんか追つてないでさあ……。

ハルアキ ……。

ナツキ 犯罪犯したつてね、立派に社会復帰してる人間だつているのよ。

フユコ お姉ちゃんさあ、状況分かつてる？ あんな嫌がらせされてさあ……近隣の人たちも不安がつてるわけよ。

ナツキ 刑罰受けてさあ、毎月コツコツ遺族のために賠償金支払つてさあ、そういう人の平穏な生活を脅かす権利、誰にもないわよ！

フユコ　じゃあ被害者はどうなんの？　いくら加害者が償ったって、被害者の心はそう簡単には癒えないのよ……あたしだって、もう何年も経つけど、未だ電車乗れないのよ！　乗った瞬間に吐き気に襲われるのよ！　まともな社会生活送れないのよ、分かる？　この苦しみ……。

ナツキ　それは分かるけどさあ、だけど、それじゃあ、犯罪犯したら誰も社会復帰することなんてできないじゃない。

フユコ　当然よ！　それくらい苦しめばいいのよ……被害者の方がさあ、何十倍、何百倍も苦しい思いしてるのよ！

入口から富永と、そのあとに続いてサトルとワカナが入ってくる。

富永　こんにちは。

土屋　あつ、お富さん……。

富永　ちよつと聞いたわよ……何なの？　あの落書き……犯罪者は出て行けとか、人殺し……か……大丈夫なの？　ちよつともう心配よ……。

一同　……。

富永　……あたし思うんだけどさあ、こういう状況になっちゃったんだからさあ、もうそういう年少上が

りの人には思いきつてやめてもらってさあ……そうすれば、フユちゃんも家に戻って来れるわけじゃない？　ねえ？　姉弟仲良く、暮らせばいいじゃない！

一同 ……。

富永 ……そんな顔してないで……ほら、握手して、握手……。

富永、姉弟三人の手を取る。

富永　ねっ？　仲良く三人で、頑張るぞっ！　オー！

入口から清水が入ってくる。

フユコと同じように署名活動の出で立ちである。

清水　こんにちは。

一同　こんにちは。

フユコ　あつ、清水さんゴメンナサイ、ちよつとまだ……。

清水　いいのよ、いいのよ、気になさらないで……ご姉弟でよく話し合われたらいいと思います……。

フユコ
すみません…………。

富永
あつ、そうだ…………あたし署名してないわ…………。(清水に) あの、書きますんで…………。

清水
あつ、そうですか? ぜひお願いします。

富永
(署名しながら) ホント、死刑になるといいですね。

清水
ありがとうございます。

富永
(ワカナに) ほら、新人も。

ワカナ
あつ、はい…………。(署名する)

富永
(サトルに) ほら、居候。

サトル
えっ? オレもすか?

富永
何でもするんでしょ?

サトル
はい…………。(署名する)

署名集めるって楽しいんですよ…………知らない方が寄って来て下さって、頑張ってたか、応援して
ますとか、絶対死刑にしましょうねとか、声かけて下さるんですよ…………なんか、あの子失わなけれ
ば、そういう、人の温かさっていうんでしょうか? そういうの感じることもなかっただろうなっ
て…………あの子にものごく感謝しなければなって…………その代償はあまりにも大きかったわけです
けれど…………あつ、ゴメンナサイ…………なんかどうも辛気くさくなってしまつて…………あたし、決め

たんです……もつと前向きに生きようって……南さんトコみたいにな、ご家族の方が亡くなられても、殺されても、明るくたくましく生きなければなって……だから、皆さん、あの、明るくいきませよう！いつものように……(テーブルの上の延びたそばが目に入って) あつ、おそば食べません？ みんなで。

えっ？

一 同

富 永 ああー……いいですね、おそば……。

清 水 ワイワイガヤガヤ……楽しくおそば食べましょうよ。

富 永 そうねそうね、食べましょう食べましょう。

ナツキ あつ、それ延びちやってるんで……。

清 水 じゃああたし食べますよ。

ナツキ えっ？

清 水 いいですよね？

ナツキ ああ、まあ……。

清 水 (席に座って箸を割って) まあーおいしそうなおそば！ こんなに大きな海老！ ほら皆さん、おそ

ば入りましたよ、おそば、ほら、盛り上げて盛り上げて、ほら、お若い方。

富 永 (サトルとワカナに) ほら、お若いの、居候！ 新人！

サトル えっ? ああ……イエーイ……。

ワカナ イエーイ……。

清水 あらあ? この前はもつと盛り上がってましたよねえ……上ですっごい笑い声とか、歌声とか、楽しそうでしたよ。

富永 ほら、楽しく楽しく。

一同 ……。

清水 こないだみたいに、ほら、歌って! 笑って!

富永 (サトルに) ちよつと、ギター持ってきてきなさい、ギター。

サトル えっ?

富永 早く。

サトル マジですか?

サトル、二階へ上がる。

清水 いただきます。

清水、そばを食べる。

清水　ん…………おいしい。

一同　えっ…………。

清水　ほら、皆さんも…………召し上がって！

富永　そうねそうね、食べましょう食べましょう。

一同　…………。

清水　ほら、遠慮なさらずに。

富永　ほーら！

一同　はあ…………。

みんな、戸惑いながら、各々そばをとり、箸を割って食べ始める。

そばが延びていてマズいので、みんなイヤそうにして食べる。

清水　そう言えば、ノブオって、のびのび生きてほしい、そういう思いでつけた名前だったんですけど

ね…………その伸びるじゃなくて…………このおそばみたいに…………延びてふやけてしまって…………ノブ

才…………。(すすり泣く)

一同…………

清水 あら？　なんで皆さんまで沈んでらっしゃるの？　別にいいじゃないですか…………他人事なんだし……自分の息子が殺されたわけじゃないでしょ…………誰一人ノブオのことなんて知らないんですから、ねえ？　ホント他人事でしょ！　お父さん殺されても他人事みたいだもんね…………ウフフフ…………おかし…………。

富永 ホント、おかしいですよね？　アハハハ…………。

清水 南さん家っておかしい！

富永 ねえ？

サトル、ギターを持って降りてくる。

ナツキ (サトルに) 弾いて。

サトル えっ？

ナツキ 早く。

サトル ええ…………。

清水 こないだ歌ってたやつ……ほら、(二場の終わりで歌われていた曲の一節を歌い)、ってやつ……

あれ、歌いましよ、あれ。

一同 ……。

清水 ほら、手拍子！

清水、声に出して歌う

清水 ほら、歌って！

サトル・ワカナ・富永、戸惑いながら歌う。

清水 まだ酒も女も知らないあの子が……ウウツ……ウウウツ……。(むせび泣く)

一同 ……。

清水 ナツキさん、このままあの少年が生かされたりしたらどうしてくれるんですか？ 生かされるだけじ

やなく、あなたとか弁護士が言うように、殺意が認定されなかったら……あの悪魔、数年で刑務所出てくるんですよ……まかり間違えば、刑務所じゃなくて、少年院ですよ！ そこ出て、このお店

みたい、犯罪人をあつたかーく迎え入れてくれるようなところで働いて。

ナツキ
……。

清水
恋愛とかして、楽しそうに歌ったり騒いだり……独立して自分の店持つような夢見たりして……
いいなあ、夢があつて……殺されたノブオの人生と大違い! ……こんな理不尽なことつてあります
か!?

フユコ
お姉ちゃん、どうなのよ。

ナツキ
……。

フユコ
何とか言ったらどうなの。

ナツキ
あの……お気持ちはずい分かります……もしかすると、あたしも清水さんみたいに自分の子供
がいて、それが同じ目に遭ったら、こんな冷静じゃいられないのかもしれない……ですけどね、
今の私には、どうしたってあの少年を死刑にすることはできないんです。

フユコ
どうしてよ。

ナツキ
マスコミとかではさあ、あの子のこと、ものすごい残虐で、悪魔みたいな子として描かれてるけど、
本当はそんな子じゃないのよ……あの子、父親から虐待されて、その暴力が原因で母親が自殺し
て……。

フユコ
家庭環境が原因だったら、何やってもいいわけ?

ナツキ あんたも見たでしょ、裁判で……十八の子がさあ、まるで中学生みたいじゃない、幼くって……。

フユコ そんな見た目なんて関係ないじゃない、中学生だって人殺すのよ！

ナツキ だからさあ、イメージなのよ！ 世間がつくりあげた……それで勝手に凶悪な犯人像膨らまして……。

フユコ だけど実際あんな残虐なことしたじゃない！ 二人をメッタ刺しにしたじゃない！ 悪魔のすること

じゃない！

ナツキ だからそれは誤解なんだって！

フユコ 何が誤解なのよ……まだあの弁護士の妄言信じてんの？ 作り話信じてんの？ おかしいでしょ！……

よ……確かに父さんは少年院上がりで、そういう立ち直った経験があったからさあ……だけどお姉ちゃん何もないじゃない！ 何の不自由もなくさあ、屈託なくさあ、陽気に明るくのほほんと、ホント夏みたいにさあ……。

ナツキ 分かったようなこと言わないでよ……あんたはすぐ家出ちゃったから、分かんないかもしれない

けどさあ、あたしはねえ、この家で、この店で、立派に更正して、社会復帰していく少年、何人も見て来てんだから。

フユコ でもさあ、そういう子たちと、父さん殺したあの子とはさあ、全く別物じゃない……更正とか社

会復帰とか、そうじゃないでしょ……お姉ちゃん本当はさあ、婚約破棄されたことまだ引きづつ

てるんでしょ？……犯罪者雇てるって分かったら、急に先方の親、態度豹変させて……それで意固地になつてただけなんでしょう？　もういいじゃない！

ナツキ　あんたに何がわかんによ！　あんたの方こそさあ、あの少年とあんた苦しめた痴漢、ゴツチャにしてんじゃないの？

フユコ　はあ？

ナツキ　この事件利用して……痴漢じゃ死刑にならないからさあ……ただの八つ当たりじゃない！

フユコ　そんなんじゃないわよ！

ナツキ　じゃあ何なのよ！　あんだだけ父さんのこと嫌ってて、距離置いて……そういうあんたがとつてつけたようなこと言わないでよ！　いっちよ前に遺族ぶんでよ！

ハルアキ　もういいよ！　ナツ姉も、フユ姉もさあ……やめようよ！……オレが悪かったよ、分かったよ！　オレもうバンドやめるよ！

サトル　えっ！？

ハルアキ　就職するよ！

サトル　マジ！？

ハルアキ　だからもうやめようよ……。

サトル　えっ？　オレどうすりゃあいいんだよ。

清水

やっぱりうちの子が殺ったって言いたいんですか？ ノブオが南さんを殺したって、そう言いたいんですか？。

ナツキ

清水さんを責めるわけじゃないですけど……。

フユコ

そんなのデタラメよ！

ナツキ

デタラメじゃないのよ！

清水

(号泣する)

フユコ

何で今の今になって供述が覆るのよ。

ナツキ

だから自白させられたのよ！……全部自分が殺したって認めれば、十八歳だし、これまでの判例に従えば、死刑になることはないって、無期懲役だって……。

フユコ

そんな……：死人に口なしじゃない！ いくらでも都合の良いように言えるわよ！

ナツキ

少なくともさあ、父さんはメッタ刺しにされたけど、ノブオ君、刺されてるの一箇所でしょ……。

フユコ

(遮って) でも、最初にナイフ出して脅したのはあの少年だし、最終的にノブオ君を刺し殺したのも

あの少年なのよ。

ナツキ

だけどそれじゃあ死刑になんかならないのよ、一人しか殺してないし、殺意がなかったんだから。

フユコ

何人殺したとかそういう問題じゃないじゃない！ 人の命奪ったのよ！ 尊い命をさあ！ そういう人間は死刑でいいじゃない！ 命をもって償うべきじゃない！

ナツキ だったらノブオ君だって殺されてもいいじゃない！ 父さんの命奪ったんだから……。

フユコ それはさあ……。

ナツキ (遮って) 尊い命って言うならさあ、死刑で命を償わせるなんて、そんな尊厳ないこと言わないでよ……。

フユコ ……。

ナツキ あんただっていつ加害者になるか分かんないのよ……自分のこと、そんな万能な人間だなんて思わないですよ。

フユコ ……。

ナツキ あたしだって……あたしだって、死刑にしてやりたいわよ、ホントに父さん殺したヤツ、父さんのことメッタ刺しにしたヤツ……。

清水 (号泣する)

フユコ ……。

清水、泣きながら去る。

フユコ 清水さん！ 清水さん！

フユコ、清水を追って去る。

入口から宇田川が入ってくる。

宇田川　　こんにちはー。

ナツキ　　……。

富　　永　　あら？　　こんにちはー。

宇田川　　どうも……：……：……：……：……：……：……：……：……：……。

ナツキ　　あの……：……：……：……：……：……：……：……：……：……。

宇田川　　ちよつとだけよろしいですかね？

ナツキ　　お帰り下さい！

入口からトモゾウが戻ってくる。

トモゾウ　　あつ！

宇田川　　あつ！

トモゾウ　　テツメエー！

宇田川 ちょうどいいところに……。

トモゾウ 何やってんだよ！ 帰れよ！（追い出そうとする）

宇田川 いや、あの、ちょっと取材を（抵抗する）

トモゾウ 取材じゃねえよ、帰れよ。

宇田川 やめて下さいよ！

トモゾウ やめるのはテメエの方だろ！

宇田川 離してくださいよ！

トモゾウ 早く出てけよ！

宇田川 やめて下さい！

トモゾウ 早く出てけ！

宇田川 あなたサカキバラなんでしょ？

ナツキ ええっ！？

トモゾウ ……何言ってるんだよ！

宇田川 今の心境とか……。

トモゾウ おい、何言ってるんだよ！（突き飛ばす）

宇田川 暴力やめて下さい！ 訴えますよ！

ナツキ トモちゃん！

宇田川 更正したとか言って、全然更正してないじゃないですか！ サカキバラ更正してないじゃないですか！

トモゾウ コツノヤロー！！

トモゾウ、宇田川に殴りかかる。

宇田川、応戦する。

周りの人、止めに入る。

物が飛び交い、大乱闘となる。

揉み合いながら、厨房の中へ入っていく。

モノが割れたりする音が聞こえる。

そば粉をかぶったハルアキが出てきて、苦しそうにもがく。

一同 (口々に) ハルちゃん、ハルアキ！ しっかり。

ハルアキ 薬……薬……。

ハルアキ、二階へ上がる。

サトル、それに付き添っていく。

やがて周りの人に制止されて、乱闘が収まる。

息を切らせるトモゾウと宇田川。

トモゾウ 誰に聞いたか知んねえけどさあ、オレ、サカキバラなんかじゃねえから。

宇田川 えっ？

一同 えっ？

トモゾウ 確かに、昔はかなりのワルでさあ、人死ぬ寸前まで傷つけたことあるけどさあ……だけどさあ、今はさあ、ちったあ真つ当な人間になつてさあ、うまいそばつくるために、一生懸命生きてんだよ！ それをさあ、興味本位で嗅ぎ回ったりしてんじやねえよ。

宇田川 興味本位なんかじゃありませんよ！ あなたみたいな人が、どうやってその後の人生歩んでるのか、僕にはそのことを明らかにする義務があるんです！ みんなそれを知る権利があるんです！

トモゾウ ホントにそう思ってるの？ 自分の陶に手当てて聞いてみるよ……そういふさあ、義務とか、権利とかさあ、そんなんで誤魔化してんじやねえよ！

宇田川 ……。

トモゾウ 知る権利とか言ってるならさあ、他もつとあんだろう！ 知らせるべき大事なことがさあ……正義

漢ぶりやがって！ 胸クソ悪い！

宇田川 ……。

トモゾウ ……。

宇田川 ……今日はここまでにしときます……また、出直してきます……。

宇田川、去る。

トモゾウ、しばらく見送り、そのあと遠くに去った宇田川の方に自分の靴を投げつける。

遠くの方でガラスが割れる音。

トモゾウ あっ……。

近所の住人の声 コラーッ！

トモゾウ すいませーん。

トモゾウ、戻ってくる。

トモゾウ ちよい謝ってくるわ……。

ナツキ ああ、いいわよ。

トモゾウ ゴメン……。

トモゾウ、去ろうとするが立ち止まる。

トモゾウ それからお富さんさあ。

富 永 はい？

トモゾウ オレ、竹中さんの奥さんとは、何にもやましいことないから。

富 永 えっ……？

トモゾウ 竹中さんがオレのつくるそば気に入ってくれて、店出すなら支援してもいいって言うてくれててさあ、
それでちよくちよく足運んでただけだから……。

富 永 ああー……：……：……：……。

トモゾウ 結局、この騒ぎで全部パーになっちゃったけど……。

ナツキ えっ？ そうなの？

トモゾウ まあ……：……：……：……：……。

ナツキ トモちゃん……………。

トモゾウ、拳で机たたたく。

上からザルが落ちてきて、富永の頭に当たる。

富永 イタツ！

一同 あっ！

ワカナ 大丈夫ですか？(富永に寄り添う)

トモゾウ、去る。

電話が鳴る。

ナツキが出る。

ナツキ はいもしもし、南海亭です……………はい……………はい……………あつ、ちよつとお待ち下さい……………(土屋

に) 土屋さん？

土屋 ん？

ナツキ 学校からよ。

土屋 学校？

ナツキ 東中から。

土屋 えっ？

土屋、電話を代わる。

土屋 はいもしもしお電話代わりました、土屋ですが……はい……はい……はい……えっ？ ケンタロウ

が！？……はい……ああ……それは申し訳ございません！ あの、相手の生徒さんは……

あー、そうでしたか……はい……はい……すぐうかがいますんで……はい……はい……

失礼します。

土屋、受話器を置く。

ナツキ どうしたの？

土屋 うちのケンタロウが一同級生にケガさせちゃったみたいで……。

一 同 ええっ？

土 屋 相手の子、救急車で運ばれちゃって……。

一 同 ええっ！？

富 永 何しちやったの？

土 屋 詳しくは学校で話すって……ゴメンなさい、すぐ学校行かないと……。

ナツキ ああーいいわいいわよ。

土 屋 (身支度しながら) ゴメンナサイ……じゃあお先に失礼するわ……。

土 屋、去りかける。

ハジメ あのー……。

土 屋 ？ (立ち止まる)

ハジメ 僕、サカキバラです。

一 同 えっ？

ナツキ ハジメ……。

土屋、去る。

ハジメ (ワカナに) 僕、サカキバラです……今まで黙っててゴメンなさい……。

ワカナ ……ええー……。(後ずさりする)

ハジメ ……。

ワカナ ……無理……。

ワカナ、去る。

呆然とするハジメ。

それを見守るナツキ。

天井裏からネズミが走り回る音がする。

暗転。

◎第五場

前場から七ヶ月後の冬。

引き続き南海亭の店内。

平日、お昼のピークを終え、残った最後の客たちが食事を終えた頃。

一場と同じく、土屋が二人連れの客の会計をしている。

厨房の中では、トモゾウと、店に就職したサトルが調理をしている。

土屋 千円お預かりします……三二〇円のお返しです。ありがとうございました。

トモゾウの声 毎度ありー。

客たち ごちそうさまでしたー。

客たち、店を去る。

トモゾウ (そばを小窓から出して) はい、上がったよー、細川印刷ね。

サトルの声 はい。

土屋 はい。

厨房の中で食器が落ちる音がする。

トモゾウの声 (厨房の中に顔を戻し) ほら、気をつけろよ！
サトルの声 すみません！

厨房から、サトルが出てくる。

サトル じゃあ、行ってきます。

土屋 いつてらっしゃーい。

トモゾウ (厨房から出てきて) あっ、サトル、ちよつと待った！

サトル はい？

トモゾウ そば湯持った？

サトル (確認して) あっ！

トモゾウ ほら、しっかり確認しろよ。(そば湯をサトルに渡す)

サトル すみません。

土屋 寒いのに二往復するところだったね。

サトル すみません、行ってきます。

土屋 行ってらっしゃい。

サトル、去る。

トモゾウ ったく……ホントおつちよこちよいなんだから。

土屋 まあ、随分マシになったんじゃない？

トモゾウ いやーまだまだ……。

二階からスーツを着たハルアキが降りてくる。

寝坊したようで、かなり慌てた感じである。

ハルアキ ヤバヤバヤバ……。

土屋・トモゾウ おはよう。

ハルアキ おはよー。

トモゾウ あれ？ ハルちゃん、まだいたの？

ハルアキ (身支度しながら) 寝過ごしちやったよ……。

トモゾウ・土屋 ええっ？

土屋 もう昼過ぎよ。

ハルアキ 会議なのに……ああーマズイ……行ってきまーす……。

土屋・トモゾウ 行ってらっしゃーい。

ハルアキ (携帯で通話しながら) あっ、もしもし南ですけど……お疲れ様です……すみません……ちよ

つと電車が遅れてまして……。

ハルアキ、去る。

トモゾウ 寝過ごしすぎじゃねえ？

土屋 最近残業多いみたいだからねえ……。

富永が入ってくる。

富永 こんにちはー。

土屋 あら、お富さん。

トモゾウ おお、いらつしやい。

富永 (ハルアキの去って行った方を見て) なんか、随分、様になってきたわねえ。

トモゾウ もう、半年経つからなあ……。

富永 早いもんね……。

土屋 (お冷やを出しながら) 今日何にする？

富永 もりでいいわ。

土屋 寒いんだから、たまには温かいのにしておけば。

富永 そばの味そのものを楽しむには、もりが一番なのよ。

トモゾウ おつ、さすがお富さん、分かかってんじゃん。

土屋 そば通ぶつちやつて……。

富永 そば通だから……。

土屋 じゃあ、冷たいもり一丁。

トモゾウ あいよ。(厨房に入る)

富永 っていうか、最近クセになっちゃってね、トモちゃんのおそば。

土屋 あらそうなの？ あんだけ言ってたのに……。

富永 やっぱりさあ、変な先入観とか持たないで、実際に食べてみて、それでモノ言わないとね……うん、

トモちゃんのそばはおいしい。

土屋 まあ……調子いい。

富永 あつ、そう言えばさあ、昨日、フユちゃん、電車乗ってたわよ。

土屋 そうそう、乗れるようになったらしいのよ……死刑判決出てから、急に……。

富永 あらあーじゃあ良かったじゃない、死刑で。

土屋 いや、死刑は良くないわよ！

富永 あら？ 土屋さん、いつの間に死刑反対派になっちゃったの？

土屋 いや、反対っていうか……子供のことで……いろいろ……。

富永 ああー、暴力息子？

土屋 ちよつとそんな言い方しないでよ。百パーセントあの子が悪かったわけじゃないんだから……。

富永 親バカねえ……。

土屋 相手が教育委員長の孫っていうだけで……全部あの子のせいにされて……先生もヒドイわ

よ……。

富永 まあ、下の中じゃねあ……。

土屋 そういふのを見るとさあ、ナツキちゃんの言ってたことも分かるなって……全部あの少年が悪いわけ

じゃないんじゃない？つて……それなのに死刑つて……。

富永 まあ……いいじゃない……フユちゃん電車乗れるようになったんだから、許してあげてよ。

土屋 だけどさあ、電車乗れるようになるのと、人の命と、どっちが大事なんだろうね……。

富永 そりゃあ電車でしょ、殺人犯の命なんか、埼京線より軽いわよ。

入口からナツキが入ってくる。

お腹が大きくなっている。

ナツキ ただいまー。

土屋 おかえりなさい。

富永 こんにちはー。

ナツキ あら、いらっしやい。

土屋 どうだった？

ナツキ うん、順調だつて……。

土屋 あらそう。

ナツキ 超音波でお腹の中見せてもらったらね……。

土屋 うん。

ナツキ なんと……性別が分かったの。

土屋・富永 ええー……!

富永 どっち? どっち?

ナツキ (厨房にむかって) あんた!

トモゾウの声 おお、ナツキーお帰り。

ナツキ 男か女か、分かったわよ。

トモゾウの声 マジ!?

トモゾウ、厨房から出てくる。

トモゾウ えっ?……どっち? 男の子? 女の子?

ナツキ ……男の子。

一同 おおー!

トモゾウ ……ヤッター!!

富永 男かあ。

土屋 (トモゾウに) 良かったわねえ、跡継ぎできたじゃない。

富永 そつか、跡継ぎか……。

トモゾウ (土屋と富永に握手しながら) ありがとう！ ありがとう！

ナツキ ホント、これでひと安心……。

富永 そばアレルギーじゃなきゃいいわね。

土屋 大丈夫よ。

富永 名前決めたの？

ナツキ うん。

富永 何？

ナツキ 名前は……ハジメ。

土屋・富永 えっ？

富永 ……いいの？ そんな名前つけちゃって……。

ナツキ うん、結局、あたしあの子に何にもしてやれなかったから……結果として、あの子のこと追い出すことになっちゃって……。

富永 だけどさあ……。

トモゾウ もう一人で決めたことだから……過去に囚われねーで、また一から始める……それでハジ

メ……………うん……………店も建てかえるしさあ、新しい機械も入るし……………みんなそれぞれ再出発ってこととで……………。

富 永 そう……………じゃあ、いいんじゃない？……………うん……………ハジメ……………いい名前だ……………うん。

土 屋 (厨房に気づき) あっ！ トモちゃん、おそば。

トモゾウ あっ！ いっけねえ……………。

トモゾウ、厨房に戻る。

ナツキ あっ、そうそう……………ワカちゃん結婚したらしいわよ。

富 永 えっ？ あの新人の？

ナツキ うん。

富 永 すぐやめちやった？

ナツキ うん。(カウンターの辺りで結婚報告の便りを探す)

土 屋 大学のサークルの先輩とデキちやった婚だって。

富 永 ええ……………。

土 屋 学生結婚よ。

富永 あらー……最近の若い子は……よく親も許したわね。

ナツキ セヶ月だって言うから、あたしとそんな変わらないんじゃない？

富永 ええー……じゃあ、店やめてすぐ仕込んだってこと？

土屋 仕込んだって……。

富永 これで向こうもハジメって名前つけてたら笑えるね、ンフフフ……。

土屋 もうーお富さん、笑えないから……つける理由ないし。

富永 まあ、つき合ってたの一週間くらいだしね……。

ナツキ あれ？

土屋 ん？ 何探してんの？

ナツキ ハガキ、結婚報告の……。

土屋 ああー……この辺に置いたと思うんだけど……。

ナツキ (粘着シートを見つけて) あっ……。

土屋 ん？

ナツキ これ、ネズミの……。

土屋 ああー……。

ナツキ まだあったんだ……。

土屋 結局あれから出てこないもんね、ネズミ。

富永 そう言えば、見なくなったわねえ……全部捕まえたんだ。

ナツキ それがさあ、天井裏に仕掛けたやつ、回収しようとしたんだけど、どういうわけか一匹もかかってなくて。

富永 そうなの？ あんなに駆けずり回ってたのに……。

土屋 何だったのかしらねえ……。

富永 実はいなかったとか……ネズミなんて、元々……。

ナツキ・土屋 ええー……。

富永 みんないるって思いこんでさあ……それで大騒ぎして……不穏な空気が流れてたから。

ナツキ ……そつか……そうかもね……。

富永 まあいいんじゃない？ これで平和になったんだから……お父さんもお母さんも安心してらるわよ……ネズミもいなくなって、店も生まれ変わって……これからたくさんいいことあるわよ、きつと。

ナツキ うん……そうね。

富永 ……明日でこの店ともお別れかあ……。

ナツキ うん。

富永 なんだかちよつと、寂しいわねえ……。

ナツキ うん……ここで育ったんだもん……あたしも、フユも、ハルも……春夏秋冬(はるなつあきふゆ)……巡りめぐって三十年……フフ……。

富永 うん。

ナツキ また来てね。

富永 うん、もちろんよ。

トモゾウ (小窓からそばを出しながら) はい、もり一丁。

土屋 はい……。

土屋、そばを富永に運ぶ。

土屋 はい、おまたせー。(そばをテーブルの上に置く)

富永 ……これでしばらく食べ収めね……。(箸を割って) いただきます。

富永、そばを豪快に食べる。

富永 ああ……おいしい……。

ネズミが天井裏を走り回る音が聞こえる。

一同 えっ？(天井を見上げる)

ナツキ・土屋 ……まさか……。(ナツキ、モップを取りに行く)

富永 最後だから出てきたんじゃないの？

土屋 ええー……今さら？

富永 見てみたら？ 天井裏。

土屋 ええー……。

富永 分かんないじゃない、見てみないと。

土屋 いや……。

ナツキ、モップを持ってきて天井を叩いてみるが反応がない。

ナツキ あれえ……気のせい？

土屋 うん…………。

ナツキ、もう一度天井を叩いてみる。

富永 って言うかさあ、見てみたら？

ナツキ うん…………。

富永 かかってんじゃない？ 粘着シートに…………息も絶え絶えで…………。

ナツキ・土屋 ああ…………。(天井を見上げる)

富永 ああ…………。かかってるって…………。

ナツキ・土屋 うん…………。(見合う)

富永 うんじゃなくてさあ…………。

ナツキ・土屋 ああ…………。(天井を見上げる)

富永 ああ…………。

ナツキ・土屋 うん…………。(見合う)

富永 うんじゃなくてさあ…………。

ナツキ・土屋 ああ…………。(天井を見上げる)

ナツキ、土屋、ずっと天井を見上げている。

富永　　もう……。。(そばをすすする)

不安そうに天井を見上げているナツキ、土屋。

そんな三人を不可思議な目で見ながらおいしそうにそばをすすする富永。

そばをすすする音が店内に響き渡る。

セミの鳴き声が聞こえてくる。

暗転。

了

『ネズミ狩り』 上演台本

作／檜原 拓 (cahri-T)

2020年12月15日編集

この台本を上演される場合は下記までご連絡下さい。

劇団チャリT企画

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-1-5 菊栄ビル402

TEL : 070-6450-4167

メール : contact@chari-t.com